

平成29年度 茨城大学 社会連携センター 年報

平成30年4月

平成29年度 社会連携センターの活動

はじめに

- ① 情報発信の強化
- ② 学生パートナーとの協働
- ③ さまざまなプラットホームづくり

1. 基本方針

2. 茨城大学の教育・研究機能と社会連携活動

3. 地域連携

(1) 地域との協働

- ① 学内公募プロジェクト
⇒ [資料1] [資料2]
- ② 連携協定締結先との共同事業
⇒ [資料3] [資料4]
- ③ 地域おこし協力隊リーグ ⇒ [資料5]
- ④ 茨城県北ジオパーク事務局
- ⑤ 自治体からの受託事業
⇒ [資料6] [資料7]

- ⑥ 地方創生ネットワークの構築 ⇒ [資料8]

- ⑦ 茨苑祭
- ⑧ 新聞マルシェ ⇒ [資料9]

(2) 大学の「知」を社会へ発信

- ⑨ 公開講座、公開授業
- ⑩ 社会教育主事講習 ⇒ [資料10] [資料11]
- ⑪ いばらき子ども大学 ⇒ [資料12]
- ⑫ 学術講演会 ⇒ [資料13]
- ⑬ 自治体の生涯学習組織との連携

(3) 学生の地域活動支援

- 授業・ゼミ活動、学生主体の活動の支援
- ⑭ 学生地域参画プロジェクト ⇒ [資料14]
- ⑮ 学生地域活動発表会
⇒ [資料15] [資料16]
- ⑯ オープンキャンパス2017企画 ⇒ [資料17]

4. 企業連携

(1) 地域企業とのパートナーシップ関係構築

- ① 研究室訪問交流会
⇒ [資料18] [資料19]
- ② パートナーズフォーラム
⇒ [資料20] [資料21]
- ③ パートナー企業との対話 ⇒ [資料22]

5. 大学を一層ご支援いただくために

- (1) 茨城大学基金
- (2) 同窓会・卒業生とのつながり強化

- ① 同窓会総会
- ② ホームカミングデー ⇒ [資料23]

6. 平成30年度の活動の展望

- ① 地域人材育成「メビウスシステム」
- ② 「地域連携統括会議」
- ③ 「地域研究」の推進
- ④ 「iOP」と学生地域活動

* 参考資料

はじめに

茨城大学社会連携センターは、茨城大学と社会・地域を結ぶ窓口として、大学内外のご要望に応えながら、年間の活動を行っています。

計画に基づいて継続的、恒常的に取り組むもの、大学内外の関係者をご相談しながら新たに取り組みを始めた活動・事業など、その年ごとに変化もしています。

各活動については、このあとの報告および、添付の資料をご覧くださいと思います。

平成29年度は、社会連携センターとして、4つの重点プロジェクトを掲げていました。

①情報発信の強化 社会連携センターの情報発信の方法について検討し、より積極的に情報発信に取り組もうとしました。社会連携センターのロゴマークをつくりました。( 茨城大学社会連携センター) さまざまな企画等についてご案内等をさしあげる際の名簿やメールアドレスの整理も継続しています。また、特に、ホームページについて見直しを行い、平成30年1月に、リニューアルを行いました。このホームページを活用するとともに、FACEBOOK等のSNSとも組み合わせた効果的で、必要な方のお役に立てるような情報発信に取り組んでいきます。

②学生パートナーとの協働 学生たちの活動の支援・サポートとしては、主にプロジェクトを行う学生たちを「学生地域参画プロジェクト」として応援してきましたが、社会連携センターの運営や企画そのものに、学生とともに取り組もうと考え、「学生パートナー」を募集しました。

平成29年度は、4年生から1年生までの6人が「社会連携センター 学生パートナー」として、さまざまな企画について、いっしょに動くようになりました。

③さまざまなプラットフォームづくり 社会連携センターの大きな目的の1つは、大学と地域・社会との間でさまざまなネットワークを構築し、「プラットフォーム」となることですが、平成29年度もさまざまな方々とのプラットフォームづくりに努めました。

このほかに、地域のどの課題に取り組んでいくか、**④重点研究の選定**も、本年度の課題の1つでした。この点は「地域研究」の推進として、平成30年度には具体的な形にしていきたいと思います。

2

1. 基本方針

◆スローガン 「交流 連携 未来へつなぐ」

社会連携センターは、上記のスローガンを掲げ、大学の持つ多様な資源を活用し、社会のさまざまな方々と協働して、社会の新たな価値創造に向けた活動を推進しています。

◆基本方針

① 学内外の「プラットフォーム」となること

・「地域活性化」の、「産官学連携」の、「社会教育」の、…といったさまざまな分野の「プラットフォーム」に。

・異なる研究分野の教員が交流する、学部を超えて学生が集える、…そういう「プラットフォーム」に。

② 地域の課題を教育、研究、協働へつなげること

◆目指すもの

- ・自治体、地元企業との対話、交流、協創活動
- ・地域で活動するさまざまな方々と課題に見合ったネットワーク
- ・社会連携活動の「実践」を担う『社会連携センター』
- ・大学と社会との「窓口」機能



3

◆社会連携センターの組織について

- 平成29年度から、地域連携課、事業推進課、連携渉外課の3つの課、地域連携部門、社会教育部門の2つの部門になりました。産学連携課、研究・産学官連携機構と、今後も協働し、協力体制を整えていきます。
- 平成29年度は、下記がセンター長・副センター長・部門長として、センター教職員とともに職務にあたりました。
影山俊男 社会連携センター長〔社会連携担当理事〕
副センター長（3人） 西野由希子 人文社会科学部教授（地域連携部門長）、安江健農学部教授（社会教育部門長）、
金野満 工学部教授
准教授 清水恵美子
特命教授 福島健太郎（常勤）、光畑由佳（非常勤）

◆社会連携センター運営上の新しい試み

- 社会連携センター内の情報共有、各事業実施の円滑な進行のため、「社会連携センター年間計画」（スケジュール表）を共有し、ファイルに、各担当者（担当課）が書き込むようにしました。また随時、印刷して、センター内の各課やセンター長室などに掲示しました。これまでも毎月の「月例報告会」等で、月間予定は確認していましたが、「年間計画」によって、各課の動きやスケジュールの調整に効果がありました。このほか、メーリングリストの見直しなどを行い、情報共有について随時、見直しを図っています。
- 外部の方の参加がある企画（講演会、意見交換会、その他）では必ずアンケートを行い、その事業についての意見を収集しました。また、すべてのアンケートには必ず、社会連携センターや茨城大学に対する意見・要望等を書いていただく欄を設け、常に、外部からの声をいただく機会としました。
- 年に2回、社会連携センターの教職員で「研修」を行いました。秋の研修では、株式会社幸和義肢研究所さま、有限会社モーターハウスさまを訪問、見学をさせていただきました。社会連携に関する「研修」は、大学全体の教職員にも意義があると考えており、平成30年度には実施を図る予定です。

4

2. 茨城大学の基本的な機能・役割と社会連携活動

○教育（学生）

・たくましい茨大生を育てるために、授業のほか、さまざまな学修機会に、地域社会のみなさまにご支援をいただける仕組みをつくる。

○研究（教員）

- ・大学ならではの研究成果を地域の未来づくりに創造的に活かす。
- ・より良き社会づくりに取り組む教員を支援する。
- ・教員が分野を超えて集える「学内プラットフォーム」を形成する。（プロジェクト、研究会、サロンなど）

5

3. 地域連携

(1) 地域との協働

①学内公募プロジェクト

- 戦略的地域連携プロジェクト ⇒〔資料1〕
教員と自治体が共同で申請する研究プロジェクト。平成29年度は9件を実施。
- 復興支援プロジェクト ⇒〔資料2〕
平成23年度より実施。データを収集している研究3件を継続し、データを蓄積していく

②連携協定締結先との共同事業

- 茨城産業会議、茨城県との「第11回 連携講演会」〔平成29年9月6日〕 ⇒〔資料3〕
テーマ「“ゲートウェイ”としての茨城の可能性～動いて、走って。茨城の未来へ、アクティビティを進めよう！～」
基調講演と2つのテーマ講演、その後、パネルディスカッションを行った。
企業や自治体、学生、一般市民など121名にご参加いただいた。
- 連携先自治体の実務担当者との意見交換会〔平成29年11月7日〕 ⇒〔資料4〕
協定を結んでいる10の自治体の担当者と意見交換。人文社会科学部・農学部などとも相談し、意見交換会は大学として開催する方向で検討したい。
このほか、自治体の担当者等から、さまざまな事業や委員等委嘱に関する相談を受けて対応している。

6

③地域おこし協力隊リーグ ⇒〔資料5〕

- 県内で活動している「地域おこし協力隊」のネットワークづくり、活動の支援、受け入れ先自治体の担当職員等のサポートを目的に、茨城県企画課と共同で企画。
- 平成29年5月31日、本学学生も参加して、1回目の集まりを開催。講演や、意見交換を行った。意見交換では、自治体職員と、地域おこし協力隊隊員が別のグループで話し合いを行った。
- 平成30年3月8日、地域おこし協力隊隊員による活動報告会。県内の横断型の報告会として実施した。

④茨城県北ジオパーク事務局

- 社会連携センターは、茨城県北ジオパークの事務局をつとめており、茨城県や参加市町と協力して、事業の運営にあたった。
- 平成29年度には再認定の審査を受けたが、残念ながら認定は取り消しとなった。今後、再認定に向け、更に多方面との協力関係を強め、体制を整えながら、活動していくことになっている。

⑤自治体からの受託事業 ⇒〔資料6〕〔資料7〕

- 平成29年度は、茨城県からの「いばらき創業10,000社プロジェクト事業（大学等における創業気運醸成事業）」を受託し、「未来を創ろう！挑戦しよう！茨城大学・起業セミナー」及び「茨城県 学生ビジネスプランコンテスト2017」を実施した。
- 「茨城県 学生ビジネスプランコンテスト2017」は、茨城県でははじめて学生対象に開いたコンテストだったが、企画にあたっては、できるだけ「新しさ」「未来」「挑戦」などが感じられる会になるよう、新しいやり方や内容を検討して企画した。
- 主催は、茨城県と茨城大学で、茨城新聞社、常陽銀行、筑波銀行に後援をいただき、茨城県と常陽銀行、筑波銀行から審査員にはいっていただいた。また、該当する受賞者に、茨城新聞社賞（賞状）、常陽銀行賞（賞状と副賞10万円）、筑波銀行賞（賞状と副賞10万円）、茨城大学学長賞（賞状と副賞30万円）を贈った。ほかに、会場のオーディエンスの投票によって選ばれた「茨城大学社会連携センター賞」には副賞として「飲み物 1年分」を贈るなど、学生たちを顕彰した。

7

⑥地方創生ネットワークの構築 ⇒〔資料8〕

・茨城県内の市町村や各地域の地域活性化、地方創生に、茨城大学として貢献していくため、昨年に引き続き、内閣府のシティマネージャーとしてそれぞれ派遣先の市町村で活動をされた経験を持ち、全国の地域活性化の取り組みに通じている5人の方に「地方創生」の顧問をつとめていただいた。

社会連携センターのさまざまな企画（シンポジウム、セミナー、研究会）に参加していただき、社連センターの活動への参画や助言をいただくため、平成30年度も継続して委嘱したい（5名の予定。4名が継続、1名が新規）

⑦茨苑祭

・茨城大学学園祭「茨苑祭」の際には、茨城大学同窓会連合会総会やホームカミングデーなどとともに、茨城大学と連携協定を結んでいる自治体等が農産品等を販売したり、市のPRをしたりする出展を行って、毎年このコーナーを目当てに来場される市民も多い。

・平成29年度は、常陸大宮市、茨城町が出展を行い、鮎の塩焼きや自慢の農産品の販売のほか、常陸大宮市の「ゆるキャラ」である「ひたまる」も登場して、市のPRを行った。

⑧新聞マルシェ ⇒〔資料9〕

・茨城新聞社の協力で、本学図書館に全国の地方紙を読むことができる「新聞マルシェ」コーナーが設置されている。

・この「新聞マルシェ」に関連するシンポジウム等を毎年開催してきたが、平成29年度は、「地域活性化」に取り組んでいる方々と話し合い、「茨城のシティプロモーション」を考えていこうという趣旨で企画した。

・本学学生3チームのほか、石岡商業高校、小瀬高校、竜ヶ崎第二高校の生徒が「地域活性化」の取り組みを発表し、講演講師を含めた参加者からアドバイスを受けた。

8

（2）大学の「知」を社会に発信

⑨公開講座、公開授業

・平成29年度も教員による一般市民向けの「公開講座」（前期12講座、後期9講座）と、申し込んだ市民が学生といっしょに授業を受講する「公開授業」（前期23科目、後期10科目）を実施した。

・常陸大宮市とは、市の「市民大学講座」（秋3回、春3回）を共催し、修了証を市長と社会連携センター長の連名で授与した。

・そのほか、連携協定先の市町村等で開講する「市民講座」や、茨城県内各地域の生涯学習センターでの講座や事業、さまざまな分野での講演依頼などについて、開講への協力、講座のコーディネイト、本学教員に対する講師依頼等の相談に応じ、協力を行っている。

⑩社会教育主事講習 ⇒〔資料10〕〔資料11〕

・平成29年度と平成28年度の「社会教育主事講習」を本学が担当して実施した。平成29年度は、茨城県、栃木県の、計65名が受講し、修了した。

・「第3回 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会」〔平成29年10月7日、8日〕 ⇒〔資料13〕

茨城県および近県で活動されている社会教育主事、教員、教育関係者が、2日間でのべ500名以上参加され、生涯学習・社会教育における交流の機会になっている。

⑪いばらき子ども大学 ⇒〔資料12〕

・NPO法人等からなる「いばらき子ども大学実行委員会」、茨城県教育委員会と社会連携センターの主催で、小学生が研究者や専門家から講義を受ける「いばらき子ども大学」を実施している。

・平成29年度は、平成29年6月25日に茨城大学講堂で全県合同の開講式を行い、三村信男学長が講師を務めた。その後は、水戸・日立の各キャンパスなども会場に、各地区で授業などが実施された。

・社会連携センターは、6月25日の合同開講式に合わせ、「盲導犬を知ろう！」を企画。来場された親子の方々などに、盲導犬について学び、ふれあう機会を提供した（ガイドードリンクと協働して開催）

9

⑫学術講演会 ⇒〔資料13〕

・学術講演会「チバニアンと地磁気逆転」を平成30年2月28日に開催した。「チバニアン」の命名を提案した研究チームの代表である理学部の岡田誠教授が一般の方向けにわかりやすく解説した。約210名の参加があり、好評であった。

⑬自治体の社会教育部門との連携

・茨城県や各自治体の教育委員会、県内の生涯学習センター、市民協働課など市民講座等を担当する市町村の担当課からのさまざまな相談や問い合わせに応え、本学の教員を講師や委員として派遣するなどしている。

・生涯学習、社会教育と、介護や福祉、地域活性化、まちづくりなどの分野が重なるようになって来ており、社会連携センターでも社会教育部門と地域連携部門が共同で検討や対応にあたるが増えている。

10

(3) 学生の地域活動支援

⑭「学生地域参画プロジェクト」 ⇒〔資料14〕

- ・社会連携センターでは「学生地域参画プロジェクト」によって、学生たちの活動を支援している。
- ・平成29年度は、スタートアップ版4件を含めた20グループを選定し、活動の途中に、中間報告・意見交換の機会を設けるなど、随時、助言等を行いながら実施した。
- ・学生たちは「学生地域活動発表会くはばたく！茨大生」で口頭発表やポスター発表を行った。
- ・茨城県の賞を受賞するなど、外部による客観的な評価をもとに「茨城大学学生表彰」に3組が推薦され、表彰を受けた。

⑮「学生地域活動発表会」 ⇒〔資料15〕〔資料16〕

・授業やゼミなどのほか、プログラム、プロジェクト、部活やサークル等での活動など、さまざまな形で地域で活動する全学の学生たちが集まり、活動報告を行う発表会を昨年度から行っており、今年度は、平成29年5月31日に「はばたく！茨大生 茨城大学学生・学外活動発表会2017春企画」及び、平成29年12月13日に「茨城大学学生地域活動発表会2017 くはばたく！茨大生」を開催した。

・平成29年12月13日開催の「茨城大学学生地域活動発表会2017 くはばたく！茨大生」では、自治体・企業・市民の方たち、高校生、本学の学生や教職員が参加し、10組が口頭発表、25組がポスター展示を行った。ポスター展示の会場では、来場の方たちと学生たちが直接、意見交換を行い、交流した。

⑯「オープンキャンパス2017企画」 ⇒〔資料17〕

・平成29年7月22日開催のオープンキャンパスにおいて、「涼み処 しゃれんcafe」を出店し、高校生や保護者向けに学生の地域での活動を紹介するポスター展示を行った。

11

4. 企業連携

地域の企業とのパートナーシップ関係構築

①研究室訪問交流会 ⇒〔資料18〕〔資料19〕

- ・茨城産業会議との共催で、研究室訪問交流会を企画している。
- ・工学部は毎年の開催で、平成29年度は10月30日に開催、110名の参加があった。
- ・農学部は隔年で開催しており、平成29年度は12月1日に開催、67名の参加があった。今年度は、はじめて、研究室訪問交流会から共同研究につながった事例について、企業の方による招待発表を行った。
- ・茨城経営者協会が平成30年度にスタートさせる「いばらき塾」（茨城県内の支店長・工場長等の方が「いばらき」を学ぶ講座）に協力することになっており、準備を進めている。

②パートナーズフォーラム ⇒〔資料20〕〔資料21〕

- ・平成29年6月28日に「パートナーズフォーラム2017」を開催、195名の参加があった。
- ・平成30年2月28日に「パートナーズフォーラム イブニングサロン」を開催し、パートナー企業との交流を深めた。58名の参加があった。

③パートナー企業との対話 ⇒〔資料22〕

- ・パートナー企業（約60社）と対話や交流を行っており、大学経営、学生教育に対する意見や要望などをいただいている。外部からの第三者評価として受けとめ、対応していくように努めている。
- ・茨城産業会議との共同事業のほか、「研究室訪問交流会」「学生の地域活動発表会」「学生ビジネスプランコンテスト」など、さまざまな企画、事業についてご案内し、ご参加いただいて、現在の大学や学生の状況を知っていただく機会にしている。

12

5. 大学を一層ご支援いただくために

（1）茨城大学基金

- ・平成16年9月に創設された「社会連携事業会」の寄付受入れ機能を引き継ぎ、平成28年9月に寄付受入れを開始した。
- ・平成29年度から、ファンドレイザー1名を配置し、本格的な渉外活動を行っている。
- ・ファンドレイザー配置の初年度は、本学教職員、同窓会関係、名誉教授・退職教職員、保護者、関係企業・取引先など、大学のステークホルダーへの働きかけが中心となった。
- ・寄附金の充実、支援者の拡大を進めるために、大学全体が一丸となって、渉外活動を行えるような環境を整えていく。

（2）同窓会・卒業生とのつながり強化

①同窓会連合会

- ・平成29年9月20日（水）、大学と同窓会との意見交換会を開催し、各同窓会が抱える課題とその方策案について議論した。
- ・平成29年11月11日（土）、「茨苑祭」の1日目に総会が開催され、役員交代や予算、事業計画等が審議された。
- ・同窓会の課題解決と活動の活性化を図れるよう、大学の協力体制を整えていく。

②ホームカミングデー ⇒〔資料23〕

- ・平成29年11月11日（土）、「茨苑祭」と同窓会連合会総会に合わせて開催された。今年度は同窓会連合会の幹事を中心とした実施委員会が設置され、企画の立案が行われた。各同窓会会員や本学名誉教授・退職教職員を招待し、総勢185名の方々にご参加いただいた。
- ・平成30年度は、都内近郊を中心に本学卒業生が就職していることから、東京を中心とした会場で大学教職員・同窓生が一同に会する場を設けることを検討している。

13

6. 平成30年度の活動の展望

①地域人材育成「メビウスシステム（茨大メビウス）」

・茨城大学では企業・地域とともに地域の人材育成に取り組んでいきたいと考えており、大学全体での取り組みを「メビウスシステム（茨大メビウス）」と総称することになっています。これまですでに、高校生、在学生・院生向けなどに実施しているカリキュラムなども改めて位置づけます。また、地域の企業や自治体と、「いばらき未来プラットフォーム」を立ちあげ、そこを基盤に、地域の要望に応える形で、新しい研修プログラムやリカレント教育にも取り組んで行くこととなります。

社会連携センターは、この「いばらき未来プラットフォーム」の立ちあげ、「茨大メビウス」の推進に向けて、平成30年度、取り組みを行っていきます。

②地域連携統括会議

・平成29年1月に、全学の地域連携、社会連携に関して、総合的にコーディネートするとともに、関係部局間の連絡調整を円滑に行うことを目的として、「地域連携統括会議」が設置されました。学長が議長となるこの会議によって、平成30年度は、大学全体の地域連携活動について、協議や情報共有を図っていきます。

③「地域研究」の推進

・地域にはさまざまな課題がありますが、それらのうち、いくつかのテーマについて、学内では全学横断的に、また、学外のメンバーにも参加いただいて研究チームをつくり、「地域研究」を進めていくことを構想しています。大学として予算等の支援を行うと共に、「研究会」などの開催も予定しています。

④「iOP」と学生地域活動

・茨城大学では、平成31年度から、3年生、第3クォーターの「iOP」がスタートします。「iOP」は、学生たちが学外で自由に活動や研究等を行うものです。「iOP」期間に、自治体や企業、地域のみなさまからいただいた課題に、学生たちが取り組めるよう、社会連携センターではサポートしていきたいと考えています。

平成29年度戦略的地域連携プロジェクト採択一覧(9件)

資料 1

No.	事業責任者			プロジェクト名	金額
	自治体等	茨城大学			
		所属・職名	氏名		
1	ひたちなか市企画部企画調整課	人文社会科学部・教授	伊藤 哲司	旧那珂湊二高利活用検討・提案及び地域活性化事業	114,000
2	茨城県教育委員会義務教育課	教育学部・教授	松川 覚	続・いばらき理科教育支援プロジェクト	360,000
3	茨城県水戸教育事務所	教育学部・教授	三輪 壽二	児童生徒支援モデル事業「ほっとステーション活動」	263,000
4	茨城町	教育学部・教授	渡部 玲二郎	茨城町ほっとステーション活動	186,000
5	那珂市教育委員会	教育学部・准教授	丸山 広人	児童生徒総合支援	280,000
6	常陸大宮市	理学部・教授 理学部・教授 人文社会科学部・教授	北 和之 岡田 誠 西野 由希子	自治体施設を利用した、茨城大学学修・地域交流促進プロジェクト	199,000
7	日立市都市建設部都市政策課	工学部・准教授	熊澤 貴之	日立空家利活用プロジェクト	280,000
8	日立市市長公室 地域創生推進課	工学部・助教	一ノ瀬 彩	日立・県北芸術祭フォローアップアートプロジェクト	280,000
9	土浦市役所市民生活部環境衛生課 阿見町役場町長公室国体推進室	農学部附属FS教育研究センター・教授	小松崎 将一	花いっぱい活動と連携した生ごみリサイクルの“見える化”プロジェクト	320,000

【実施した効果や今後の対応について】

- ・本プロジェクトは、教員と自治体とが取り組むプロジェクトとして、継続してきており、成果があがっている。
- ・結果や成果については「報告書」にまとめ、WEBでも公開しているが、もっと自治体や地域の方々に知っていただく方法がないか検討したい。
- ・平成30年度から、教員グループ等が取り組む「地域研究」の支援も行っていく予定であり、「戦略的地域連携プロジェクト」とあわせ、より多くの教員に関わってもらえるようしくみを考えていきたい。

平成29年度 茨城大学復興支援プロジェクト採択一覧(3件)

資料 2

NO.	部局等名	代表者氏名	研究課題名	金額
1	理学部	北 和之	福島第一原子力発電所事故により環境中に放出された放射性セシウムの 大気再浮遊プロセスとその影響の解明	200,000
2	農学部	浅木 直美	牛ふん堆肥連用土壌における作物-土壌間のCs 動態の解析	100,000
3	フィールドサイエンス 教育研究センター (農学部)	小松崎 将一	霞ヶ浦流域生態系における放射性物質の環境影響評価と対策技術開発	300,000

【実施した効果や今後の対応について】

- ・2011年の東日本大震災後、復興支援のためのプロジェクトを支援するために設けたカテゴリであり、現在は、データ等を継続して収集するプロジェクト3件をこの名称で支援している。
- ・今後も、学術的に必要な時期までは支援を継続し、研究結果を社会に還元するようしていきたい。

平成29年度 茨城大学・茨城県・茨城産業会議連携講演会

平成29年9月6日（水）、茨城大学は、「“ゲートウェイ”としての茨城の可能性～動いて、走って。茨城の未来へ、アクティビティを進めよう！～」というテーマの講演会を水戸京成ホテルにて開催し、企業や自治体、学生、一般市民など121名にご参加いただいた。

本講演会は、茨城大学、茨城県、茨城産業会議の3機関により毎年実施しており、今年度は、茨城県の交通やインフラの整備が進む中、地域の活性化をどのように進めたらよいか新しい発想による取り組みを模索する場として、茨城や全国の事情に詳しい専門の方、現場での取り組みを行っている方などからお話をうかがい、さまざまな角度から今後の連携や協働の可能性を考えていけるように行われた。

影山社会連携センター長の開会挨拶に続き、北山 孝雄氏（北山創造研究所代表）から「北山創造研究所の街づくりあの手この手」をテーマに基調講演が行われ、その後、和田 幾久郎氏（株式会社ナムチェバザール代表取締役）の「茨城県内のアウトドア・アクティビティ、これまで、これから」、塚原 伸治氏（茨城大学人文社会科学部准教授）の「民俗学からみる茨城一生涯られたものとしての伝統文化」、上記2つのテーマ講演が行われた。

後半は、西野副センター長による進行のもと、講演とパネルディスカッションの間に回収した来場者からの質問や意見に対して回答する形で、基調講演講師およびテーマ講演講師によるパネルディスカッションが行われた。

実 施 日：平成29年9月6日（水）

時 間：13時30分～16時30分 天気：雨

場 所：水戸京成ホテル

司 会 進 行：人文学部4年 小園 恵人（社会連携センター学生パートナー）

総合討論進行：茨城大学社会連携センター副センター長 西野 由希子

参 加 者 数：平成29年度121名（一般・企業等：92名、学生5名、大学関係者等24名）

平成28年度130名（一般・企業91名、学生2名、大学関係者23名、
未記入者14名）

平成27年度148名（一般・企業63名、学生50名、大学関係者等35名）

◆今年度の対応等

1. 事前に主催の三者でテーマや講演者を検討した。
2. 事前申し込みによる受付対応とした。
3. 経営者協会と茨城県に、講演会についての案内周知を依頼した。
4. 自由配布コーナーへ講師に関係する資料の閲覧・提供をおこなった。
5. NHK 県域ニュース、茨城新聞で報道された。
6. 茨城県企画課から地域おこし協力隊隊員と市町村へ、メールでの案内を出してもらった。



講師：北山 孝雄氏



講師：和田 幾久郎氏



講師：塚原 伸治氏



パネル討論の様子

【実施した効果や今後の対応について】

- ・終了後に回収したアンケートでは、講演会全体について「非常に満足」「満足」という方が91%で、「色々なアプローチから茨城の可能性に関する話を聞くことができた」「非常に新しい切り口、発想を得られた」などの意見をいただいた。
- ・来年度以降もテーマの設定・講師の選定については、今年度同様、事前に主催の三者で協議し、調整したうえで設定していきたい。
- ・広報について、本学では水戸駅デジタルサイネージの利用、茨城県では広報誌や県HPでの告知なども行えるとよい。

2017年度

茨城大学・茨城県・茨城産業会議

連携講演会

“ゲートウェイ”としての
茨城の可能性

動いて、走って。

茨城の未来へ、アクティビティを進めよう!

北関東道や圏央道の延伸・開通など、港湾、空港を含めて、茨城県の交通やインフラの整備が進む中、地域の活性化をどのように進めたらよいか、新しい発想による取り組みが期待されます。

茨城や全国の事情に詳しいご専門の方、現場での取り組みを行っている方などからお話をうかがい、さまざまな角度から、今後の連携や協働の可能性を考えていきたいと思っております。

各方面から多くの皆さまのご参加をお願いいたします。

2017年 9月6日[水]
13:30~16:30 [受付 13:00から]

入場無料

事前申込制

お申込みにつきましては裏面をご覧ください。

PROGRAM プログラム

開会挨拶 13時30分~ 茨城大学理事・社会連携センター長 影山 俊男

基調講演

北山創造研究所の街づくり
あの手この手

13時40分

北山創造研究所 代表
北山 孝雄氏

テーマ講演①

茨城県内のアウトドア・アクティビティ、これまで、これから

14時35分

株式会社 ナムチエバザール 代表取締役
和田 幾久郎氏

テーマ講演②

民俗学からみる茨城 -生きられたものとしての伝統文化-

14時55分

茨城大学人文社会科学部准教授
塚原 伸治氏

休憩

15時15分

パネル討論

15時30分

[パネリスト]
地域振興 北山 孝雄氏
スポーツ 和田 幾久郎氏
文化資源 塚原 伸治氏

閉会

16時30分

会場
水戸京成ホテル

〒310-0011
茨城県水戸市三の丸1-4-73 Tel.029-226-3111
水戸駅北口より徒歩3分〈公共交通機関のご利用にご協力願います。〉

どなたでも
ご参加
いただけます

主催：茨城大学・茨城県・茨城産業会議

お問い合わせ

茨城大学社会連携センター

茨城県水戸市文京2-1-1 Tel.029-228-8585
E-mail: syaren-apply@ml.ibaraki.ac.jp Fax.029-228-8495

講師プロフィール

北山創造研究所 代表
北山 孝雄 (きたやま たかお)



北山 孝雄氏

どんな生活を実現したいかを発想の原点に、人を軸にしたまちづくり、くらしづくりを手掛ける。代表的なプロジェクトにサンストリート亀戸、海老名ビナウォーク、日本橋まちづくり、横浜ベイクォーター、ココラフロント、東急ハンズ、群馬県草津温泉「御座之湯」「湯路広場」「熱乃湯」、両国広小路、肥後銀行新本店。主な著書に「まちづくりの知恵と作法」「24365東京」「このまちにくらしたい うずるまち」「北山創造研究所のあの手この手」。「2007毎日デザイン賞」受賞。

株式会社 ナムチェバザール
代表取締役
和田 幾久郎 (わだ いくお)



和田 幾久郎氏

水戸市出身。高校時代にアメリカワシントン州シアトルショーウッド高校に留学。この時にアメリカ人の自然に対する考え方やライフスタイルに感銘し、後のアウトドア事業の展開に大きな影響を受けた。1994年に株式会社祐月に入社し、同年アウトドア事業部を新設しアウトドアプロショップ「ナムチェバザール」をオープンさせる。2009年に環境NPO法人WaterDoorsを設立し、Eボートを使った環境教育や毎月千波湖、桜川沿いのゴミ拾いを実施して環境美化活動をしている。現在水戸にペロタクシー(自転車タクシー)を走らせるべく活動中。

茨城大学人文社会科学部准教授
塚原 伸治 (つかはら しんじ)



塚原 伸治氏

千葉県佐原市(現・香取市)出身。筑波大学大学院博士課程、日本学術振興会特別研究員、東京大学東洋文化研究所特任研究員を経て、2015年より茨城大学准教授。専門は民俗学。2004年より千葉県香取市、滋賀県近江八幡市、福岡県柳川市において、老舗の人々の生活や歴史に関するフィールドワークを続けている。近年は商店街の歴史研究も手がけている。主要業績に『老舗の伝統と〈近代〉-家業経営のエスノグラフィー-』(2014年、吉川弘文館)、共著に『「二〇世紀民俗学」を乗り越える』(2012年、岩田書院)などがある。

お申込みについて

事前のお申込みをお願いいたします

【申込方法】下記にご記入の上FAX頂くか、電子メールにてお申込みください。

【申込期限】平成29年8月28日(月) [期限後は、下記までお問い合わせください]

FAXでのお申込みが
便利です。

お知らせいただく内容

企業・団体・自治体名等	
ご連絡先 (電話・メールアドレスなど)	電話: E-mail:
役職名	氏名



【お申込み・お問合せ先】
茨城大学社会連携センター 〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1
TEL.029-228-8585 FAX.029-228-8495
mail:syaren-apply@ml.ibaraki.ac.jp

駐車台数に限りがございますので、公共交通機関のご利用にご協力をお願いいたします。

茨城大学と連携協定先自治体との実務者意見交換会

平成29年11月7日（水）、本学と連携協定を締結している自治体およびCOC事業において連携している自治体の実務担当者、10自治体（茨城県、阿見町、大洗町、鹿嶋市、高萩市、東海村、日立市、常陸大宮市、常陸太田市、水戸市）から13名の方にお集まりいただき、社会連携センター研修室において意見交換会を開催した。

出席者の自己紹介の後、今年度の茨城大学社会連携センターの取り組み、今後の茨城大学の社会連携の方向について報告させていただき、各自治体からは「市民・高校生・大学生・地域おこし協力隊」等と協働で取り組まれている活動や事業の事例が紹介され、最後に意見交換を行った。

実施日：平成29年11月7日（水）

時間：10時00分～12時00分 天気：晴れ

場所：社会連携センター3階研修室

全体司会：茨城大学社会連携センター副センター長 西野 由希子

参加者数：26名（自治体：13名、大学関係者等：13名）



【実施した効果や今後の対応について】

- ・終了後に回収したアンケートでは、「社会連携センターの取り組みとともに、他の自治体の事例も知ることができ、良い機会でした」「このように、意見交換や情報交換ができる機会は継続していくことが望ましいと考える」などの意見があった。
- ・今後、活発な意見交換を行うために、「開催者側で自治体に聞く質問を用意しておき、自治体側に発言を求めてはどうか」「資料を事前に配布しておき、意見を出しやすいよう準備してきてもらうとよい」といった提案もあったので、参考にしたい。
- ・今後は、大学との協定先自治体に加え、学部との連携協定を持っている自治体にも参加してもらう方向で検討したい。また、同じような職員が参加する会議が、学部主催でも開かれていた例があり、今後は大学主催（社会連携センターが担当）する方向で学部と調整したいと考えている。

「茨城大学と連携協定先自治体との実務者間意見交換会」概要

1. 経緯、趣旨

- ・本学では、平成24年度まで、地域連携推進本部が、大学間協定を結んでいる連携協定先自治体と、近況報告や意見交換を行う場として「茨城大学と連携協定先自治体との実務者間意見交換会」を開催していた。
- ・社会連携センターでは、年に1回程度、「茨城大学と連携協定先自治体との実務者間意見交換会」を開き、連携協定に基づく活動状況の報告や確認、新しい動向等の情報交換、出席者による意見交換などを行って、よりよい連携活動の展開につなげていく。

2. 参加対象自治体・参加者

- ・本学と連携協定を締結している自治体（※1）、COCにおいて連携している自治体（※2）
 - ※1 平成29年度現在は、以下の通り。
茨城県、及び、県内8市町村（高萩市、日立市、常陸大宮市、東海村、水戸市、茨城町、鹿嶋市、阿見町）
 - ※2 大洗町、常陸太田市
- ・参加者は、各自治体の「実務担当者（係長）」1～2名とする。

3. 大学側出席者

- ・社会連携センター長、副センター長、COC統括機構副機構長、センター所属専任教員、COC所属専任教員、特命教授、部長、課長、担当職員
- ・陪席者その他は、各回開催の際に検討する

4. 平成29年度の開催

- (1) 日時 平成29年11月7日（火）10:00～12:00
- (2) 場所 茨城大学 社会連携センター3階研修室（水戸市文京2-1-1）
- (3) 内容
 - 1) 自己紹介
 - 2) 社会連携センターの活動報告
 - 3) 連携活動に関する意見交換
 - 4) その他

茨城県地域おこし協力隊リーグ 2017年度 春の交流会

平成29年5月31日(水)、社会連携センターでは、平成28年度より茨城県地域計画課(平成29年 企画部企画課)と相談しながら県内の地域おこし協力隊の方々や担当課の職員の方々との意見・情報交換会の開催、本学学生と地域おこし協力隊の方々との合同の研修会のサポートなどをしており、その一環として新年度はじめの新しく着任された方もいる時期に交流会を実施した。

今回の講師としては、2011年より3年間、常陸太田市(里美地区)で地域おこし協力隊「ルリエ」のメンバーとして活動され、現在も同市内で勤務されている、中野 明紗氏をお招きし、「地域と人をつなげるー地域おこし協力隊ルリエの活動と、現在ー」と題してご講演いただいた。講演の後は、参加者全員での交流会の時間を設けた。

実施日：平成29年5月31日(水)

時間：15時30分～17時30分 天気：晴れ

場所：茨城大学社会連携センター研修室

総合司会：茨城大学社会連携センター副センター長 西野 由希子

特別講義講師：元 常陸太田市地域おこし協力隊「ルリエ」メンバー 中野 明紗氏

参加者数：44名

(地域おこし協力隊／17名、自治体担当部局職員等／10名、
学生／3名、教職員／12名、その他／2名)



【実施した効果や今後の対応について】

- ・新しく着任した地域おこし協力隊にとっては、他市町村の隊員との交流の機会になっており、自治体職員も他市町村の事例を直接聞くことができ、県内全体に呼びかけて大学で開催する意味はある。
- ・学生と地域おこし協力隊が親しくなる機会にもなっていて、この後、地域おこし協力隊の活動に学生たちが参加したり、協働したりすることにつながっている。
- ・今回の会については、交流会の時間にきちんとファシリテーターを置いて意見交換を進めた方がよかったという点が反省される。

いばらき創業10,000社プロジェクト
「未来を創ろう！挑戦しよう！ 茨城大学・起業セミナー」

本企画は、茨城県から茨城大学が委託された「いばらき10,000社プロジェクト事業（大学等における創業気運醸成事業）」の一環として、平成29年9月25日（月）、26日（火）の二日間にわたり行われたものである。

一日目は、約50名（半数以上が大学または高校の学生）の参加があった。はじめに、Open Street 株式会社CEO、ソフトバンク株式会社 横井 晃 氏の「私の起業、シェアサイクルの未来」、株式会社54代表取締役（本学出身）、プロトスター株式会社代表取締役COO 山口 豪志 氏の「ベンチャー支援、その先に目指すもの」をご講演いただいた。対談では講演講師のお二人に加え、有限会社モーハウス代表取締役、社会連携センター特命教授 光畑 由佳 氏にもご協力いただいた。最後に参加者全員での懇談交流会を行い、おのおのが有意義な時間を過ごせるよう努めた。

二日目には、約30名の参加があり、講座講師として、一般社団法人日本中小企業情報化支援協議会事務局長 櫻木 諒太 氏をお招きし、「起業のための1から10」と題した講座と、ワークショップ「起業プラン作成」（起業プラン指導）を行った。

実 施 日：平成29年9月25日（月）
 時 間：13時00分～16時30分 天気：晴れ
 場 所：社会連携センター3階研修室
 全 体 司 会：茨城大学社会連携センター副センター長 西野 由希子
 講 演 講 師：Open Street 株式会社CEO、ソフトバンク株式会社 横井 晃 氏
 株式会社54代表取締役（本学出身）、プロトスター株式会社代表取締役COO
 山口 豪志 氏
 対 談 司 会：有限会社モーハウス代表取締役、社会連携センター特命教授 光畑 由佳 氏
 参 加 者 数：47名
 （一般：4名、大学生：20名、高校生：5名、大学関係者等18名）



会場の様子



対談の様子



懇親交流会の様子

実 施 日：平成29年9月26日（火）
 時 間：13時00分～16時00分 天気：晴れ
 場 所：図書館3階セミナールーム
 全 体 司 会：茨城大学社会連携センター副センター長 西野 由希子
 講 座 講 師：一般社団法人日本中小企業情報化支援協議会事務局長 櫻木 諒太 氏
 参 加 者 数：29名（一般：5名、大学生：8名、高校生：10名、大学関係者等6名）



講座講師：櫻木氏



講座の様子



講座の様子

【実施した効果や今後の対応について】

- ・一日目のアンケート結果としては、「非常に満足」「満足」が 88 %にのぼり、概ね参加者には満足していただけた。
- ・参加者に起業に対する意識の違いもあり、「起業の際に必要なスタンスについて教えてほしかった」など、聞きたいと思う内容もさまざまであることがわかった。本学として、はじめて開いた本格的な「起業セミナー」だったので、今後、内容等をくふうしていきたい。
- ・二日目はワークショップ形式で行ったが、アンケート結果では「非常に満足」「満足」で 100% となり、大変好評であった。
- ・「起業」というポイントだけでなく、他者とのコミュニケーションなどについて新たな視点を持つことができたとの声も多かった。授業とはちがうスタイルのセミナーが、学生や参加者にとって有意義であることが確認できた。
- ・このセミナーの後、「学生ビジネスプランコンテスト」まで講師のサポートを受け、プランを磨いた学生もいたが、今年度は少数であり、今後、そのような流れをどのように作れるかが課題である。

未来を創ろう！挑戦しよう！
茨城大学・起業セミナー

参加費無料

1日だけの
参加も可

「なにかを始めたい」「やりたいことがある」「好きなことを仕事にしたい」「自分の力を試したい」「自分らしい働き方を見つけたい」…起業・創業は、会社や事業を興すことでもありますが、新しい生き方や暮らし方を自分の手でつくっていくことも言えます。

この起業セミナーによって、起業・創業を身近にある選択肢の1つとっていただき、皆さんに新しい道や可能性を示すことができたらと考えています。

9/
25月

会場:茨城大学社会連携センター
3階研修室

12:30 受付開始

13:00 開会

13:10~ 講演 横井 晃 氏

OPEN Street 株式会社CEO、ソフトバンク

「私の起業、シェアサイクルの未来」



横井 晃 氏

山口 豪志 氏

株式会社54代表取締役(本学出身)

「ベンチャー支援、
その先に目指すもの」



山口 豪志 氏

15:00~ 対談 司会:光畑 由佳 氏

有限会社モーハウス代表取締役
本学社会連携センター特命教授



光畑 由佳 氏

15:45~ 懇談交流会 [16:30終了予定]

9/
26火

会場:茨城大学図書館
3階セミナールーム

12:30 受付開始

13:00~14:30 起業講座「起業のための1から10」

14:45~16:00 ワークショップ「起業プラン作成」
(起業プラン指導)

中学生、高校生、大学生、一般の方など、どなたでもご参加いただけます

[お申し込み] 以下の内容を9月21日(木)までに syaren-apply@ml.ibaraki.ac.jp へ、メールでお送りください。

●お名前/学校名・学年等(一般の方は所属先等)/連絡先(電話等)
メールアドレス/参加希望日

[お問い合わせ] 茨城大学社会連携センター

tel.029-228-8585 (地域連携課)

mail syaren-apply@ml.ibaraki.ac.jp

予告

11月23日(木・祝日)に茨城大学を会場に
「茨城県 学生ビジネスプランコンテスト」を開催します

いばらき創業 10,000 社プロジェクト
「茨城県 学生ビジネスプランコンテスト 2017」

「学生ビジネスプランコンテスト 2017」は、平成 29 年 11 月 23 日（木）、「いばらき創業 10,000 社プロジェクト」の一環として、「起業セミナー」の後に開催したものである。

参加者（観覧者、発表者、審査員）は約 110 名で、コンテストへの申込みが 30 テーマ、一次審査通過の発表が 10 テーマと、初の試みとしては評価できる数字であった。

実施 日：平成 29 年 11 月 23 日（木）
 時間：13 時 00 分～17 時 15 分 天気：雨のち晴れ
 場所：図書館 3 階ライブラリーホール
 全体 司 会：茨城大学社会連携センター副センター長 西野 由希子
 参加 者 数：109 名
 （審査員：5 名、大学関係者等：22 名、発表者・メンバー：21 名、
 コンテスト申込者：2 名、観覧者：55 名、茨城県：4 名）



会場の様子



発表の様子



発表者集合写真

【実施した効果や今後の対応について】

- ・茨城県ではじめて開かれた学生大賞の「ビジネスプランコンテスト」だったが、中学、高校、複数の大学から応募があり、レベルも一定以上のものであった。
- ・会の運営等については、音楽、照明等をくふうし、受付にロボット（ペッパー）を配置するなど、できるだけ新しい雰囲気のを演出した。来場者の投票による特別賞なども新しい試みだった。このような試みについては、参加者から好評を得た。
- ・今回の参加者は、「茨城大学 HP」や「学校、担任などから」本企画を知った方が 65%を占めた。「デジタルサイネージ」や「茨城新聞広告」の効果を含め、広報については、今後、検討する必要がある。
- ・本「ビジネスプランコンテスト」後、内容をブラッシュアップし、茨城県主催の「県北ビジネスコンペティション」へ応募して受賞したケースがあった。コンテスト応募から、実際の起業等につなげるための仕組みについて、今年度もフォローアップを行ったが、今後さらに、後援いただいた銀行等との連携などにより、継続的な支援の方法をつくっていききたい。

茨城県 学生ビジネスプランコンテスト2017



「会社を興してこんな仕事をしたい」
「新しい事業で地域の活性化を進めたい」など、
学生のみなさんの
ビジネスプラン・アイデアを募集します。
多数の応募をお待ちしています！

未来を創ろう！
挑戦しよう！

平成29年

11月23日 (木・祝)

主催 ●茨城県、茨城大学
後援 ●茨城新聞社、常陽銀行、筑波銀行

■開催日時	平成29年11月23日(木・祝) 13:00~17:00(予定) ◆ビジネスプランのプレゼンテーション[一次審査通過者による] ◆表彰式
■会場	茨城大学図書館3階 ライブラリーホール (水戸市文京2-1-1 茨城大学水戸キャンパス)
■実施方法	①コンテスト参加エントリーシート、②ビジネスプラン(企画内容を書いたもの、関連資料等)を提出いただき、事前の書類審査(一次審査)と、プレゼンテーションによるコンテスト(本審査)を行います。審査員は茨城大学や県、金融機関等の専門家がとめます。
■募集期間	平成29年10月12日(木)~11月8日(水) ※①コンテスト参加エントリーシートを先に提出いただき、その後、 ②ビジネスプランを提出してもかまいません ※一次審査の結果発表は、11月14日(火)を予定しています
■応募対象	・大学生、高校生・中学生等の学生。個人、または、グループで応募下さい。 ・茨城県内在学・在住であること。または茨城県出身等であり、茨城県内でのプランであること。 ※応募対象について、ご不明な点があれば、事務局にお問い合わせ下さい。

11月23日(木・祝)のコンテストの観覧者も募集いたします！

事前お申し込み 11月17日(金)までに、「お名前・ご所属(学生の場合は学校名・学年等)・連絡先メールアドレス」
「ビジネスプランコンテスト観覧希望」とお書きいただき、下記宛てメールでお知らせ下さい。
イベント申し込みシステム Peatixでも申し込み受付いたします

●お問い合わせ、観覧申し込み
事務局 ●茨城大学社会連携センター 地域連携課
Tel.029-228-8585 mail:syaren-apply@ml.ibaraki.ac.jp

●コンテストの詳細は、以下のHPをご覧ください

エントリーシートなどの応募書類もこちらからダウンロードしてください
<http://www.scc.ibaraki.ac.jp/archives/event/biz-con2017>



応募・観覧
無料

受賞一覧

賞	No.	代表者名	所属	テーマ
最優秀賞 茨城大学長賞	1	正田 真悟	茨城大学 3年	「ドローンを用いた動画撮影による地域活性化事業」 ドローンを用いて動画撮影を行い、観光名所等をPRする動画を作成、地域活性化や観光に貢献する。
優秀賞 茨城新聞社賞 社会連携センター賞	4	金澤 陽菜	茨城県立常陸大宮高等学校 3年	「6次産業型高校生株式会社による“農業と食”そして観光を融合させた茨城ビジネス戦略」 ～H I O K Oホールディングス株式会社による地域創生プランニング～
優秀賞 筑波銀行賞	3	山内 新太	茨城県立水戸第一高等学校 2年	「常陸野ブランド」の創設による茨城県経済の活性化 農家と料理人が協力して茨城県の野菜のイメージアップのための店舗を開店・展開し、地域の経済の活性化・魅力度アップを図るプロジェクトである。このプロジェクトは、農家と料理人との間の繋がりがとても重要である。
優秀賞 常陽銀行賞	5	竹内 涼	筑波大学 1年	大学生が高齢者の家に住み込む 高齢者を支える人を増やす第一歩
敢闘賞	2	安田 敬	筑波大学 2年	日本の職人と海外人を結ぶプラットフォーム事業
	6	西村 瑠夏	筑波学院大学 2年	ふるさとの食とアートをマリアージュしたミュージアムカフェを起業する
	7	島村 和惟	茨城県立古河中等教育学校 5年	チャリメロ 自転車用のメロディーロード 新しい革新的な広告
	8	松田 賢征	筑波大学 2年	「高齢者がわくわくできる健康寿命延伸サービス」 健康寿命問題に警鐘が鳴らされ、さまざまな対策がされている今も課題が解決されていない。なぜか？ 「健康のために運動しよう、栄養管理をしよう」だからではないかと考えた。自分は「楽しい時間」・「一日の充実」に焦点を置きわくわくできるような総合型施設の整備を目標とする。健康寿命延伸は目指す結果ではなく、ついてくる結果であることが重要と考えた。「いつのまにか」がキーワードになるものに。
	9	高橋 晃平	筑波大学 3年	海外旅行に安心と勇気を！！ ～不安がいっぱいな海外旅行に安心できるアプリを～
	10	大川 翔史	茨城大学 2年	農業機械シェアサービス

茨城大学社会連携センター顧問一覧

資料 8

【地方創生】

氏名	任期	所属	派遣市町村
アズマ タイシ 東 大史	平成28年8月1日～ 平成30年3月31日	一般社団法人村楽	北海道奈井江町
アベ タカシ 阿部 剛志	平成28年9月1日～ 平成30年3月31日	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 政策研究事業本部公共経営・地域政策部	新潟県・粟島浦村
フカヤ シンスケ 深谷 信介	平成28年9月1日～ 平成30年3月31日	株式会社博報堂ブランドデザイン、スマート×都市デザイン研究所、博報堂ソーシャルデザイン副代表	桜川市 つくばみらい市 鳥取県日野町
マルヤマ タケシ 丸山 武志	平成28年9月1日～ 平成30年3月31日	日本総合研究所	滋賀県米原市
ヤマモト シンイチロウ 山本 慎一郎	平成28年8月1日～ 平成30年3月31日	一般社団法人RCF	奈良県明日香村

【茨城県北ジオパーク】

氏名	任期	備考
ナガモリ キヨシ 永盛 清	平成28年9月27日～ 平成30年3月31日	茨城県北ジオパーク担当

茨城大学新聞マルシェ「みんなで考える茨城のシティプロモーション」

平成30年1月24日（水）茨城県、茨城新聞社の協力のもと、茨城大学図書館において「新聞マルシェ～みんなで考える茨城のシティプロモーション～」を開催した。

本年度は、「地域活性化」に取り組んでいる大学生・高校生、自治体等でシティプロモーションや広報などを担当する方々、新聞等メディアに携わるみなさまや市民の方たちが、いっしょに話し合い、「茨城のシティプロモーション」を考えていこうという趣旨で企画・実施し、約100名の参加があった。

第一部で、茨城県広報監 取出 新吾 氏には「茨城のシティプロモーション」について、株式会社茨城新聞社 常務取締役 沼田 安広 氏には「『新聞マルシェ』と地方紙の役割」についてご講演いただいた。第二部では茨大生3チームと3つの高校生の、計6団体がプレゼンテーションを行った後、少人数のグループに分かれてディスカッションの時間を設けた。

会場には全国各地の地方新聞を置いた閲覧スペースを設置し、休憩時間に自由に閲覧していただいた。自由配布分として茨城新聞社様から数日分の新聞のご提供もいただいた。

実施 日：平成30年1月24日（水）

時 間：14時30分～17時45分 天気：晴れ

場 所：図書館3階 ライブラリーホール

第一部 司会：茨城大学人文学部3年 岩本 有彩 栗林 朝美

第二部 司会：茨城大学社会連携センター副センター長 西野 由希子

講演 講師：茨城県 広報監 取出 新吾 氏

株式会社茨城新聞社 常務取締役 沼田 安広 氏

参加者数：101名

（一般：5名、大学生：36名、大学関係者等：26名

茨城県立石岡商業高等学校：生徒：12名 教員：3名

茨城県立小瀬高等学校：生徒：4名 教員：2名

茨城県立竜ヶ崎第二高等学校：生徒：11名 教員：2名）



第一部の様子



第二部の様子



閲覧ブース

【実施した効果や今後の対応について】

・アンケートでは、「満足」「非常に満足」が約8割であった。また、参加者がこの企画をどのように知ったかという項目では、高校や大学からの紹介が約6割、ホームページからが2割、関係者等からの情報提供が2割であった。

・「新聞マルシェ」に関連した企画は、毎年行っており、茨城新聞社と協議して内容を検討している。今回は、かねてより茨城県広報広聴課から、学生たちと「シティプロモーション」について意見交換の機会を持ちたいという要望が出されていたこともあり、合同企画とした。「新聞マルシェ」に関連して、どのような企画ができるか、今後もアイデアを出しあいながら、考えていきたい。

・「学生ビジネスプランコンテスト」に続き、高校生と大学生が交流し、双方に刺激を受け、収穫の多い会となった。このような、合同の企画は意義があり、今後さらに展開していくと思われるが、大学内で、アドミッションセンター等との連携については「地域連携統括会議」等で検討していきたい。

みんなで考える 茨城のシティプロモーション

学生・自治体・メディア

1月24日 (水) 2018年

15:00~17:45 [14:30~ 受付]

茨城大学 図書館3階
ライブラリーホール
水戸市文京2-1-1
茨城大学水戸キャンパス

●主催
茨城県
茨城新聞社
茨城大学



茨城県



茨城新聞社



茨城大学
Ibaraki University

プログラム

- 15:00 開会
15:10~ 講演1 取出新吾氏 茨城県広報監 タイトル「茨城のシティプロモーション」
15:40~ 講演2 寺島博実氏 茨城新聞社地域連携室長 タイトル「『新聞マルシェ』と地方紙の役割」
16:10~ [休憩]
16:20~ 茨大生と高校生によるプレゼンテーション【各校生徒による「地域活性化」の取り組み発表】
●茨城大学人文社会科学部
地域課題の総合的探求プログラム3年生(3チーム)【地域活性化提案・中間報告】
タイトル「中山間地域における高齢社会に伴う食の問題ー常陸大宮市を事例に」
タイトル「水戸レトロ建築の活用」
タイトル「笠間市の事例から考える茨城県の観光の可能性」
●茨城県立石岡商業高等学校 タイトル「石商生による地域活性化プロジェクト!!」
●小瀬高等学校 タイトル「常陸大宮市の地域ツアープラン」
●竜ヶ崎第二高等学校 タイトル「高校生がつなげるWA!りゅうがさきフューチャーセンター」
17:00~ ディスカッション
17:45 閉会(予定)

「新聞マルシェ」は、茨城新聞社の協力の
もと、茨城大学図書館において全国
各地の地方新聞を置いたスペースを提
供している事業です。関連して、新聞
やメディアへの理解を深めるシン
ポジウム等を毎年行っていま
す。本企画は、「地域活性化」
に取り組んでいる大学生・高
校生、自治体等でシティプ
ロモーションや広報などを
担当する方々、新聞等メディ
アに携わるみなさまや市民
の方たちが、いっしょに話
し合い、「茨城のシティプ
ロモーション」を考えて
いこうというもので
す。ご関心のあるみ
なさまのご参加をお
待ちしております。

入場
無料

どなたでも
ご参加になれます
[事前にお申し込み下さい]

参加を希望される方は
茨城大学社会連携センター 地域連携課に
左記の事項を明記の上
メールでお申し込みください。
①お名前 ②所属(学生の場合は学名、学年)

syaren-apply@
ml.ibaraki.ac.jp

〒310-8512 水戸市文京2-1-1 茨城大学社会連携センター 地域連携課 Tel.029-228-8585 Fax.029-228-8495



茨城大学社会連携センター

Ibaraki University Social Collaboration Center

平成29年度 社会教育主事講習

文部科学省からの委託事業として、平成29年度社会教育主事講習を実施した。

本講習は、社会教育法及び社会教育主事講習等規程に基づき、社会教育主事となるべき者に、職務を遂行するにあたり必要な専門的知識、技能を修得させ社会教育主事となりうる資格を付与することを目的として、北関東地区では2年交替で本学と宇都宮大学が、茨城県と栃木県の学校教員や行政機関等の職員を対象に実施しているものである。

今年度は、茨城県から46名、栃木県から19名の計65名の受講者があり、全員が社会教育主事講習の全課程を修了した。

講習は、平成29年7月24日から8月25日までの間で、実質23日間にわたり社会教育概論、社会教育計画、社会教育演習、社会教育特講の各講義や演習が165時間実施された。

社会教育演習では、実践を想定してのワークショップやファシリテーション等の実習を行い受講生からも好評であった。

また、11の班に分かれてそれぞれの課題を受講生の前で班ごとに発表を行い、報告書にまとめることにより課題に対する多角的な検証や実地調査なども行い、協調性や仲間意識なども培われる講習となった。

宿泊研修や現地研修、社会教育施設見学なども実施し、受講生同士の絆が深まると共に、社会教育に対する意識も大きく変わったとの意見を受講生から得ている。

なお、平成30年度と31年度は宇都宮大学で開講予定である。

次に本学が当番になる3年後には、社会教育主事に関する規定が改定の上施行されるので、講習のカリキュラムや科目体系が変更になる予定である。



第3回 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会

「第3回 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会」が、平成29年10月7日(土)・8日(日)に茨城大学水戸キャンパスで開催された。

この会では「学びを通しての地域活性化」という点で成果をあげている各都県の実践を発表し、話し合いを通して経験・知識・技術を学び合うこと、関東圏域での地域づくりに関わる実践研究交流の場づくり、支援スキルの習得、対話・交流が地域課題解決の糸口となることを目的としている。

1日目には、3つのテーマ(①学校・家庭・地域の連携、②地域課題の解決に向けた取組、③青少年教育)5つの分科会に分かれ、テーマごとに20の団体から事例発表が行われた。その後、それぞれの課題解決に向けた意見交換を行い、参加者は課題への解決策を探った。

2日目は、本学の三村学長が「国連持続可能な開発目標(SDGs)がめざすもの～世界と地域はどうつながっているのか～」と題した講演を行い、その後の全体会では関係者間での出会いと対話を通じたシェアリングを行い、最後にクロージング・トークセッションを行うことで、大会を振り返るとともに、次回へのはずみとした。

1日目には334名、2日目は203名の延べ537名の参加者があった。



【実施した効果や今後の対応について】

・茨城県は社会教育主事の養成に力を入れており、市町村に配置される社会教育主事の数も多くなっていて、市町村で果たす役割も大きくなっている。社会連携センターが自治体と一っしょに活動する際の担当者であることも多い。今後も、社会教育主事や、県内の生涯学習・社会教育担当者とのネットワークづくりに努めたい。

・「関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会」については、平成30年度も本学を会場にしての開催が予定されている。事業内容等については、実行委員会が組織されて企画や運営にあたられているので、社会連携センターは「主催」からははずれ、「協力」という立場でサポートしていく。



社会教育の大きな波を起こそう! Let's raise a **Big Wave!**

第3回大会 実践研究交流会 生涯学習・社会教育 関東近県

日付 平成29年 10月7日(土)~ 8日(日)

会場 茨城大学 水戸キャンパス

参加費 無料 (どなたでも参加できます)

- ・スーツでの参加は、できるだけご遠慮ください！
- ・ノーネクタイ普段着での参加をお願いしております！
- ・名札・名刺の持参をおすすめします！

最新情報

関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会



主催 茨城県教育委員会 茨城大学社会連携センター 茨城県生涯学習・社会教育研究会
 主管 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会実行委員会
 後援 福島県教育委員会 栃木県教育委員会 群馬県教育委員会 埼玉県教育委員会
 千葉県教育委員会 神奈川県教育委員会 国立青少年教育振興機構
 茨城県社会教育委員連絡協議会 茨城県公民館連絡協議会
 協力 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター 茨城県教育庁社会教育主事会

「いばらき子ども大学」茨城大学講堂で平成 29 年度開校式を開催

小学生たちが大学教員や企業研究員などによる専門的な講義を通して学ぶことができる「いばらき子ども大学」の平成 29 年度開校式が、6 月 25 日（日）、茨城大学水戸キャンパスの講堂で行われた。

「いばらき子ども大学」は、「子どもたちの知的好奇心等に応え、知的な世界を開く」ことを目的に、大学や企業、生涯学習関係機関との連携により、科学、金融、農業、医療、芸術など様々な分野について、小学生の興味にあわせた授業を企画し、茨城県内の大学等をキャンパスにして実施している。NPO などで組織される「いばらき子ども大学実行委員会」、茨城県教育委員会、茨城大学社会連携センターの主催で平成 26 年度に始まり、今年で 4 年目を迎えた。

開校式では、いばらき子ども大学の学長を務める茨城県北生涯学習センター長の野口 不二子氏、茨城県教育委員会の小野寺 俊 教育長、茨城大学の三村 信男 学長からそれぞれ挨拶があり、約 500 名の小さな大学生にエールが送られた。

第 1 回の合同授業は、本学の三村信男学長が講師を務め、「地球環境の未来」と題し、地球温暖化などの環境問題について、その影響や対策を熱く語りかけるとともに、解決方法についてみんなで考えた。子ども大学生たちも真剣に講義を受講し、これからの小さな大学生としての学園生活を楽しみに目を輝かせていた。



講演の様子（三村信男学長）



参加者集合写真

【実施した効果や今後の対応について】

・「いばらき子ども大学実行委員会」からは、本学を会場にしていることについて小学生やその家族から好評であること、今後も会場の使用や、本学の学長や教員の講師としての協力いただきたいというご要望を頂いている。

・開校式の前には、本学学生（「子どもふれあい隊」）が小学生たちと「アイスブレイク」を行う時間が設けられた。また、社会連携センターでは、開校式の前の時間帯に、ガイドドリンコさまと協働で、「盲導犬を知ろう」という特別企画を実施した。参加された親子、子どもたちに、盲導犬について知識を得てもらい、実際にふれあう催しで、多数に参加いただき、好評を得た。このような連動企画についても今後も検討したい。

平成 29 年度 (第 4 期生)

いばらき子ども大学

小学 4・5・6 年生の「大学生」を募集します！

「いばらき子ども大学」は、現役の大学の先生や専門家から、最新技術や情報を聞くことができる、学校の枠を超えた、新しいカタチの学びを子どもたちに伝える場所です。

茨城県全土が学びのキャンパス（県北、県央、鹿行、県南、県西）となります。

URL > <http://hito-machi.net/kodomous/>

県西キャンパス

県南キャンパス

県央キャンパス

鹿行キャンパス



他キャンパスの情報や「いばらき子ども大学」のことを知りたい時は、こちらの QR コードまたは上記 URL から確認できます



平成 28 年度～ 協賛をいただいた企業・団体・大学 (順不同)

- <資金協賛> 茨城県農業協同組合中央会 日立製作所グループ (株)常陽銀行 (株)筑波銀行
新日鐵住金(株) 茨城県酪農業協同組合連合会 ロボット科学教室クレファス・ひたちなか校
(有)土浦総合保険 (医)北水会・北水会記念病院 茨城女子短期大学
- <授業協賛> (有)加賀屋感動ストアマネジメント JAXA宇宙航空研究開発機構 (株)日立製作所
日上市かみね動物園 プリジラス(株) 新日鐵住金(株) 産業総合研究所 (株)ユニキャスト
KEKキャラバン・高エネルギー加速器研究機構 (国研)物質・材料研究機構
Tech Kids School アクアワールド茨城県大洗水族館 (公財)日本科学協会
野村ホールディングス(株)
- <授業協力大学> 茨城大学 筑波大学 茨城キリスト教大学 常磐大学 筑波学院大学 茨城女子短期大学

【主 催】 いばらき子ども大学実行委員会 茨城県教育委員会
茨城大学 社会連携センター

盲導犬のことを知ろう！

6.25 (日)

11:30
～ 13:00

茨城大学
図書館1階
ラーニングコモンズ



いばらき子ども大学 同日開催

町でみかける盲導犬。どんなお仕事をしているの？みなさんにわかりやすくお話をして、身近に感じていただけるイベントです。盲導犬がみなさんをお待ちしています！

! 盲導犬体験歩行もできます。(体験者数には制限があります)

- 参加費 無料です。どなたでもご参加できます。
- 場所 茨城大学図書館1階ラーニングコモンズ(水戸市文京2-1-1)
- 内容 盲導犬について学ぼう
 - ・訓練士さんのおはなし
 - ・アイマスクを使った盲導犬体験歩行
 - ・盲導犬普及活動

茨城大学学術講演会「チバニアンと地磁気逆転」

茨城大学は、平成 30 年 2 月 28 日（水）「チバニアンと地磁気逆転」と題し、学術講演会を行った。地球の地質年代で約 77 万年～12 万 6 千年前の年代が「チバニアン」（千葉時代）と命名される見通しとなり、ニュース等でも連日取り上げられている話題であったため、ご年配の方から未就学児まで約 220 名の参加があった。

今回の講演は、この命名を提案した研究チームの代表である本学理学部の岡田誠教授に、調査・研究の経緯や、命名に関する背景などを一般の方向けにわかりやすく解説していただき、参加者からは大変高い評価を得た。

実施日：平成 30 年 2 月 28 日（水） 天気：晴れ

時間：15：30～17：00

場所：常陽藝文センター 7 階 常陽藝文ホール

司会：茨城大学 社会連携センター副センター長 西野 由希子

講演講師：茨城大学 理学部教授 岡田 誠

参加者数：214 名

（一般：151 名、パートナー企業 20 名、メディア 5 名、学内 38 名）



講演講師 岡田教授



講演の様子



講演の様子

【実施した効果や今後の対応について】

・アンケートでは、「非常に満足」「満足」という方が94%で、「素人にもわかりやすかった」「トピックスな話談でたのしかった」「地質学の奥深さについて理解できた」「大変な研究の過程がわかった」などの意見が多かった。

・本講演会についてなにごで知ったか尋ねた項目では、「新聞記事、新聞折り込みなど」21%、「茨城大学、社会連携センターHP」20%、「講演会のポスター・チラシを見て」19%、「関係者・知人からの情報提供・紹介」17%と、さまざまな周知方法それぞれに効果があったことがわかった。また、「講演会のポスター・チラシ」を公民館や図書館で目にして参加された方が多かった。全体に、大学生、自治体、企業などの方よりも、一般の方、特に比較的高齢の方の参加が多く、今回のような学術的な講演会へのニーズがうかがえた。

・今後とりあげてほしいテーマとして、「IoT、AI分野」「茨城県における特色のある地質」「茨城県における今後の地震活動予想と現場」「自然栽培に関する最先端の話」「工学（土木）分野」「歴史、仏教に関するもの」等があがっており、今後の企画の参考にしたい。

・社会連携センターの活動としては、一般市民や、企業向け、自治体職員向けなどさまざまな方へ向けた講演会の企画・開催を行っているほか、「公開講座」「公開授業」の企画・開催、図書館主催の「土曜アカデミー」への協力、自治体や生涯学習センター等が企画される「市民講座」等への協力がある。これらについて、テーマ、開催スタイル、対象などをよく検討し、バランスのよい企画ができるよう努めたい。

入場料
無料

茨城大学 学術講演会 「チバニアンと地磁気逆転」

地球の地質年代で約77万年～12万6千年前の年代が「チバニアン」(千葉時代)と命名される見通しとなりました。今回の講演は、この命名を提案した研究チームの代表である本学理学部の岡田誠教授が、調査・研究の経緯や、命名に関する背景などを一般の方向けにわかりやすく解説します。地学への関心や理解を深めていただく機会として、多くのおみなさまのご参加をお待ちします。



岡田 誠 教授

プログラム

15:00.....受付開始

15:30～17:00...講演(茨城大学理学部 岡田 誠教授)

日時

平成30年
2月28日(水) 15:30～

場所

常陽藝文センター7F 常陽藝文ホール
(〒310-0011 茨城県水戸市三の丸1-5-18)

対象

一般・高校生など
どなたでも参加できます

定員

先着300名
(定員になり次第締め切ります)



白尾火山灰層付近の拡大写真。GSSPが承認されると、この火山灰層に「ゴールデンズバイク」が打たれ、ここから上の地層の時代名称が「チバニアン」と呼ばれることになる



「千葉セクション」における岩石試料採取の様子

申込み

2月7日(水)から申込受付開始

- 茨城大学社会連携センターホームページを御覧ください
- URL <https://www.scc.ibaraki.ac.jp/>



問い合わせ

 **茨城大学社会連携センター**
Ibaraki University Social Collaboration Center
TEL 029-228-8585 / FAX 029-228-8495
メール syaren-apply@ml.ibaraki.ac.jp

Access Map



水戸駅北口より徒歩8分 / 常磐自動車道水戸ICより約20分
北関東自動車道茨城町東ICより約18分
※お車で来館の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。

主催: 茨城大学

平成29年度学生地域参画プロジェクト採択一覧 16件

	氏名	所属	プロジェクト名	配分額	備考
1	正田 真悟	人文社会科学部 3年	地域活性ドローンプロジェクト	165,000	
2	村上 柚香里	人文社会科学部 3年	まなびの輪大洗における多文化共生～	239,000	H29年度学生表彰受賞
3	小泉 咲綺	人文社会科学部 3年	国連SDGs × イバラキ	238,000	
4	今野 香織	人文社会科学部 3年	地方創生事業 里山フォレストフェス地域ブランディングプロジェクト	232,000	
5	田島 彩花	人文社会科学部 3年	茨大生×東北プロジェクト大生と共にもう一度被災地へ、そして伝える活動へ～	186,000	
7	木村 愛実	人文社会科学部 2年	現場から学ぶ茨城学畑で広げる地域の「わ」～	235,000	
6	長永 勇太 丹治 彩弥乃	人文社会科学部 2年 人文社会科学部 2年	岡倉天心・五浦発信プロジェクト	181,000	H29年度学生表彰受賞
8	長永 勇太	人文社会科学部 2年	西塩子の回り舞台茨大チーム	31,000	
9	梅津 尊子	教育学部 2年	日本一つながる学食プロジェクト	116,000	H29年度学生表彰受賞
10	青山 実樹	理学部 2年	大洗応援隊!OPEN OARAI もっと大洗を身近に～	181,000	
11	川原 涼太郎	工学部 3年	茨大聞き書き隊Notes	227,000	
12	鎌田 吉紀	工学部 3年	県北空き家再生プロジェクト本の集まるゲストハウス～	196,000	
13	鈴木 美果 中原 沙彩	農学部 3年 農学部 3年	あみゆめカフェ知って、好きになって、発信する 未来に繋げるカフェづくり～	81,000	
14	小川 真澄	農学部 3年	FES (Food Education Supporter)食育応援隊～	73,000	
15	寺尾 正樹	農学部 3年	のらボーイ & のらガール食農教育プロジェクト～	86,000	
16	渡辺 康太	理工学研究科 2年	SENBA Project	172,000	

H29年度学生地域参画プロジェクト（スタートアップ版）採択一覧 4件

	氏名	所属	プロジェクト名	配分額	備考
1	川田 綾香	人文社会科学部 2年	廃校那珂湊二校を活用した多世代交流プロジェクト話題のグランピングに学生が挑戦～	49,960	
2	越中 未穂	人文社会科学部 1年	ひたちなか表町商店街活性化プロジェクト	50,000	
3	松崎 薫	人文社会科学部 3年	笠間くりざんまいプロジェクト	42,700	
4	神田 紗帆	人文社会科学部 2年	「かすみがうら市こども未来フェス」サポート活動	47,952	

「はばたく！茨大生」茨城大学学生・学外活動発表会 2017 春企画

平成 29 年 5 月 31 日（水）、全学教育機構・社会連携センター主催、ICAS 後援にて「はばたく！茨大生」茨城大学学生・学外活動発表会 2017 春企画を実施した。「はばたく！茨大生」は今後春と冬の年 2 回開催とし、冬は社会連携センターが中心になって企画、春は全学教育機構が中心に企画することが決まっている。今回の春企画では、社会連携センターは、参加する学生たちのサポートのほか、社会連携センターとしてポスター発表に参加した。参加学生団体は 17 団体、総参加者は約 100 名であった。

主	催	全学教育機構・社会連携センター
後	援	ICAS
実	日	平成 29 年 5 月 31 日（水）
時	間	13 時 00 分～14 時 30 分（第一部 口頭発表） 14 時 30 分～15 時 30 分（第二部 ポスター発表） 天気：晴れ
場	所	理学部 K 棟 1 階インタビュースタジオ
総合司会（学生）		学生 小松崎流緋（人文 B2）、丹治彩弥乃（人文 B2）、 長永勇太（人文 B2）
活動口頭発表		のらボーイ&のらガール食農教育プロジェクト 岡倉天心・五浦発信プロジェクト 茨大東北ボランティア Fleur 茨大聞き書き隊 Notes こどもの城における造形ワークショップ実践 KAKEHASHI プロジェクト English Camp AIMS プログラム
ポスター発表		のらボーイ&のらガール食農教育プロジェクト 岡倉天心・五浦発信プロジェクト 茨大東北ボランティア Fleur 学生コーディネーター 西塩子の回り舞台茨大チーム まなびの輪 現場から学ぶ茨城学～畑で広げる地域の「わ」～（農プロ） 日本一つながる学食プロジェクト SLSC（大洗にとってライフセーバーとは？） ジュニエコ（ジュニアエコノミーカレッジ in 水戸） プロジェクト実習 さとみ・あい

「茨城学」のその先へ
人文社会科学部地域志向教育プログラム
茨城大学社会連携センター
KAKEHASHI プロジェクト
English Camp
AIMS プログラム (インドネシア・ガジヤマダ大学)
茨城国際学生会議
参加者数 約100名



【実施した効果や今後の対応について】

・当初、先輩たちから1年生に向けて活動紹介を行うという目的であったが、当日、1年生の参加が少なく、第1クォーターと第2クォーターの間の予備日という開催時期（開催日）に問題があったのではないかと反省が出された。来年度については、開催時期や開催方法についても検討していくことになった。

「はばたく！茨大生」

茨城大学学生・学外活動発表会 2017 春企画



茨城大学では、すべての学生が卒業するまでにディプロマ・ポリシーとして掲げる5つの基盤学力を身につけ、地域社会を支える人材やグローバルに活躍する人材、イノベーションをリードできる人材となることをめざしています。

そのためには学外活動による刺激も非常に重要です。学外活動は自身の視野を広げ、知識や技能を磨く必要性に改めて気付かせてくれます。1年次第2クォーターから始まる茨城学、3年次第3クォーターのインターンシップなど、学外学修の機会はいくつ用意されていますが、**1年生から積極的に学外活動に参加することをおすすめします。**

茨城大学のディプロマ・ポリシー

[5つの茨城大学型基盤学力]



世界の俯瞰的理解 <世界を見わたす>

自然環境、国際社会、人間と多様な文化に対する幅広い知識と俯瞰的な理解



専門分野の学力 <道を究める>

専門職業人としての知識・技能及び専門分野における十分な見識



課題解決能力・コミュニケーション力 <ともに答えを導く>

グローバル化が進む地域や職域において、多様な人々と協働して課題解決していくための思考力・判断力・表現力、及び実践的英語能力を含むコミュニケーション力



社会人としての姿勢 <社会人として生きる>

社会の持続的な発展に貢献できる職業人としての意欲と倫理観、主体性



地域活性化志向 <地域と向き合う>

茨城をはじめとする地域の活性化に自ら進んで取り組み、貢献する積極性

日時：2017年5月31日（水）

13:00～14:30（全体発表）

14:30～15:30（ポスター発表）

場所：理学部 K 棟 1 階

インタビュースタジオ



問い合わせ先：

茨城大学学務部学務課(水戸市文京 2-1-1)

共通教育棟 1 号館 2 階

Tel: 029-228-8489

2年生以上でポスター発表を希望される方は、5/26（金）まで、学務課にて受け付けますので、ぜひお問合せください。

まずは、どのような学外活動があるのか知るところからスタートしましょう。

皆さんの先輩方がどのように学外にはばたき、成長を遂げたのか、学外活動体験談をご紹介します。茨城学への心の準備のためにも、是非ご来場ください。

主催：茨城大学 全学教育機構・社会連携センター・COC統括機構

後援：茨城大学 地球変動適応科学研究機関（ICAS）

「はばたく！茨大生」発表者リスト

発表代表者	代表者所属 学年	活動タイトル	活動概要
小松崎 流 緋	人文学部 B2	学生コーディネーター	私たちは、地域と学生をつなぐ組織として、プロジェクト同士の交流会を開催しました。今年は学生活動の支援や、地域活動のきっかけを作る場「イバラキカク」の運営に取り組みます。
長 永 勇 太	人文学部 B2	西塩子の回り舞台茨大チーム	茨城県常陸大宮市塩田地区にある日本最古の組立式農村回り舞台、【西塩子の回り舞台】の保存・継承・発信のために活動をしています。今年度は、西塩子の回り舞台保存会の皆さんや地元の子供歌舞伎の皆さんと協力し、活動を広げていきたいと考えています。
丹 治 彩弥乃	人文学部 B2	岡倉天心・五浦発信プロジェクト	茨城県北茨城市にある五浦という地の魅力、またそこに根付いた岡倉天心の思想や歴史を利用して、地域活性化のためのイベントを企画し活動してきました。国際岡倉天心シンポジウム 2016 への参加や、サザコーヒーと共同での五浦コーヒー開発等を行いました。
寺 尾 正 樹	農 学 部 B3	のらボーイ&のらガール 食農教育プロジェクト	阿見町を中心に農学部生という立場から、多くの人たちの食や農業に対する正しい知識を伝え正しい判断をしてもらうという活動理念のもと、実際に農業をし、食農教育イベント等を開催しました。
村 上 柚香里	人文学部 B3	まなびの輪 〈大洗における多文化共生〉	まなびの輪は、定住外国人の方々の多い大洗町で、外国人の方々が地域と関わりながら、快適に生活していくことができるようにサポートする活動をしています。
江 口 紗 姫	人文学部 B2	現場から学ぶ茨城学～畑で広げる 地域の「わ」～（農プロ）	「農業を通して地域と関わる・地域を繋げる」をコンセプトに活動中です。昨年度は耕作放棄地の再生活動として、畑を作る、野菜を育てる、収穫して調理するといったイベントを行い、たくさんのお会いや繋がりを生みました。
川 原 涼太郎	工 学 部 B3	茨大聞き書き隊 Notes	私たち「Notes」は常総市での水害を踏まえ昨年発足しました。昨年は被災者の方の生の声を冊子にまとめた他、常総市内の小中学校での一斉防災訓練を協力して実施しました。今年は冊子を活用した防災教育に注力します。
伊 藤 真 帆	教育学部 B2	日本一つながる学食プロジェクト	学生が株式会社坂東太郎様とチームを組んで行うプロジェクトです。これまでに、茨苑会館食堂のリニューアルオープンのサポートの他、新メニューの開発、茨苑祭への参加、干し芋農家への訪問などを行ってきました。
大 村 みるほ	教育学部 B2	茨大東北ボランティア Fleur	茨大東北ボランティア Fleur は、無理なく続けることをモットーに東日本大震災の被災地でボランティア活動をし、そこで見たこと感じたことを発信し続けてきました。また、茨城で震災の風化防止活動もしています。
田 島 彩 花	人文学部 B3	プロジェクト実習 「さとみ・あい」	2012 年から常陸太田市里美地区にて活動を行っています。若者・よそ者である私達大学生が、里美をより活性化させるため、特産品の一つである里川カボチャ生産の促進をはじめ田畑での活動を通して、魅力発信活動をしています。
畠 山 知 希	人文学部 B3	SLSC (大洗にとってライフセーバーとは?)	大洗町で活動する私たち SLSC は海での活動だけでなく、様々なところで大洗に関わっています。そのような活動を通して、大洗にとってライフセーバーとはどのような存在なのかをご紹介します。
高 橋 優 紀	人文学部 B2	ジュニエコ (ジュニアエコノミーカレッジ in 水戸)	水戸市の小学校 5、6 年生が複数の班に別れ、起業から納税までの一連の会社の活動を通じて「自分力の発揮」を目指す活動です。我々大学生もまた、彼らの手伝いを通して自らの目的意識の確立や他世代との活発な交流を行っています。
山 田 秀 平	教育学研究科 M2	こどもの城における 造形ワークショップ実践	こどもの城で行われるイベントにおいて、造形ワークショップを企画実践しています。学校教員を目指す私にとって、そのような外部でのこども達の姿を見られる機会はとても貴重であり、意義深い体験となっています。
水 出 幸	人文学部 B3	KAKEHASHI プロジェクト	私たちは、外務省が推進する「KAKEHASHI プロジェクト」事業により、米国コロラド州デンバーに 8 日間派遣されました。帰国後、ワークショップや International Café を企画運営しました。
遠 山 沙 紀	教育学部 B3	English Camp	English Camp は教育学部英語選修主体のサークルです。オールイングリッシュでセッションとよばれる様々な活動を行います。楽しみながら参加者のみなさんに英語学習のモチベーションをあげてもらうことを目標に活動しています。
酒 井 麻里奈 倉 持 ゆり	人文学部・B3 人文学部・B2	茨城国際学生会議	茨城国際学生会議は、学生が主体となり企画・運営を行っている学生による学生のための国際会議で、「グローバル化する現代社会をマクロな視点からの確に理解し、国際社会で活躍できる人材の育成」を目的として開催されています。
後 藤 里 奈 牧 野 果 子	農 学 部 B4	AIMS プログラム (インドネシア・ガジャマダ大学)	AIMS プログラムで 3 年次後期にインドネシアに留学しました。言語、宗教、風習が全く異なる環境での生活や、様々な国から来た留学生との交流を通して、実際に触れないと分からない真の情報を知ることの大切さを実感しました。

上記は発表の一部です。このほかにも発表する団体がある予定です。

茨城大学で学生地域活動発表会 2017 <はばたく！茨大生>を開催

12月13日（水）、地域での自主的なプロジェクト活動や、ボランティアや研究等で地域での活動に取り組んでいる学生たち57団体が、口頭発表やポスター展示などにより活動について発表し、相互に交流する「茨城大学学生地域活動発表会 2017 <はばたく！茨大生>」を開催し、学生、高校生の他、自治体、企業などから併せて188名が参加した。

茨城大学の学生たちはこれまでも地域の中で展開されるさまざまな活動に参加したり、自らプロジェクトを企画・運営したりして、地域・社会に関わってきた。近年は自治体や企業から寄せられる学生の活動への期待も高まっている。本学では平成28年度にディプロマポリシー（学位授与方針）を定め、5つの茨城大学型基盤学力のひとつとして「地域活性化志向」を掲げ、全学部必修の授業「茨城学」の開講など、学生の地域志向を高め、活動を支援する全学的な仕組みを構築している。

今回の「茨城大学学生地域活動発表会 2017 <はばたく！茨大生>」は、授業や学生プロジェクト、ボランティア、サークルなどさまざまな形で地域での活動を行っている学生たちが参加し、それぞれの取り組みをプレゼンテーションやポスターによって発表するもので、2016年より年に2回開催し、今回で3回目の実施となる。学生たちの活動は、耕作放棄地の再生、学生食堂のメニュー開発、ドローンを活用した地域活性化、自治体の観光PR動画制作など多岐にわたる。

口頭発表の後は、ポスター展示による取り組みの発表と、参加者が学生たちと直接交流する懇談の場が設けられた。

今後も、広く学生たちに呼びかけながら、さまざまな活動内容の地域への発信と、地域の方々から学生たちへの指導や助言を得られる場を設ける企画を継続していく。

実施日：平成29年12月13日（水）

時間：13時30分～16時15分 天気：晴れ

場所：茨城大学 講堂

司会進行：小園 恵人・倉持 ゆり（社会連携センター学生パートナー）

参加者数：平成29年度 188名

（一般：65名、学生：84名、大学関係者等：39名）

平成28年度 170名

（一般：78名、学生：65名、大学関係者等：27名）

参加団体：全57団体（口頭発表：10団体、ポスター発表：25団体）

※詳細別添参照



三村学長による開会挨拶



学生の口頭発表



ポスター展示による発表

【実施した効果や今後の対応について】

- ・アンケートでは、「非常に満足」「満足」が94%にのぼり、「学内の様々な活動について知ることができた」「プレゼンの発表の仕方やプレゼン内容の展開の仕方がすごくためになった」「まとまっていたよかった」というような意見をいただいた。口頭発表の時間については「もう少し長く聞きたかった」という声もあり、次回の開催にあたっては、検討したい。
- ・発表会、学生の地域での活動については「地域に貢献する大学として今後も期待している」「学生がこれほど多岐にわたる活動をしていることに驚いた」との意見もいただいた。
- ・社会連携センター主催としては2回目の開催で、今回から「学生地域参画プロジェクト」の採択プロジェクトは必ず発表を行うことにした。学生たちが活動発表（活動のまとめ）を行うこと、参加どうして交流や意見交換を行うという目的は十分に達成できている。
- ・今回も高校生が来場され、大学生の取り組みを参考にしていたこと、地域の市民や自治体、企業の方から、いっしょにこのようなテーマに取り組みませんか、と学生チームに声をかけられていたことは、今後の開催にあたり、企画の内容へのヒントになると思われる。

茨城大学学生地域活動発表会2017

へはばたく！茨大生

地域で活動している
学生たちの発表会です

日時

平成29年

12/13 水 13:30～

会場

茨城大学 水戸キャンパス講堂

授業、プロジェクト、ボランティア、サークルなど、さまざまな形で地域で活動を行っている全学の学生たちが参加し、発表を行います。発表会後に活動紹介を兼ねた交流会を実施いたします。

<プログラム>

13:30 開会

13:40～15:05 口頭発表（プレゼンテーション）

- ・日本一つながる学食プロジェクト
- ・現場から学ぶ茨城学 ～畑で広げる地域の「わ」～
- ・茨大聞き書き隊Notes
- ・茨大生×東北プロジェクト
- ・地域活性ドローンプロジェクト
- ・君とチャレンジ
- ・茨城大学ローターアクトクラブ
- ・人文社会科学部 小原ゼミ
- ・人文社会科学部 村上ゼミ
- ・人文社会科学部 馬渡ゼミ

15:05～15:20 講評、全団体の代表者紹介、第2部の説明

15:30～16:15 ポスター展示／交流会

16:15 終了予定



自治体、企業、団体、学生をサポートしてくださっている

地域の方々、市民の皆さま、ぜひ、ご来場ください!!



参加申し込み

平成29年12月12日(火)までに syaren-apply@ml.ibaraki.ac.jp にメールでお申し込み下さい。

*お名前 *ご所属先 *ご連絡先(お電話、メールアドレス等)をお知らせ下さい。

問い合わせ先

茨城大学 社会連携センター(地域連携課) 水戸市文京2-1-1
TEL 029-228-8585 E-mail renkei@ml.ibaraki.ac.jp

《プログラム》 司会：小園恵人（人文学部4年／社会連携センター学生パートナー）

13:30 開会挨拶 三村信男茨城大学長

第1部 学生口頭発表〔各5分〕

- 13:40～
- ①日本一つながる学食プロジェクト
 - ②現場から学ぶ茨城学～畑で広げる地域の「わ」～
 - ③茨城大学航空技術研究会
 - ④茨大東北ボランティア＊FLEUR＊
 - ⑤茨大聞き書き隊NOTES
- 〔質疑応答〕
- ⑥人文社会科学部 小原ゼミ
 - ⑦人文社会科学部 土屋ゼミ
 - ⑧人文社会科学部 村上ゼミ
 - ⑨人文社会科学部 馬渡ゼミ
 - ⑩茨城大学ローターアクトクラブ
- 〔質疑応答〕

* 「ピンクのカード」には、発表団体宛のコメント（ご助言、激励など）をお寄せください。

* 「アンケート」へのご協力もお願いいたします。

15:05～ 講評、全団体の代表者紹介、第2部の説明

第2部

15:20～16:15 ポスター展示／交流会

茨城大学学生地域活動発表会〈はばたく！茨大生〉団体一覧

No.	口頭発表	ポスター	配付資料	カテゴリ	名称(団体・個人)	活動内容	活動地域
1	○	○	○	●学生地域参画プロジェクト	●日本一つながる学食プロジェクト	学生会館内食堂のリニューアル企画及びメニュー開発等。地元企業と連携し、学生・地域の交流を生む食堂事業を提案	水戸市
2	○	○	○	●学生地域参画プロジェクト	●現場から学ぶ茨城学 ～畑で広げる地域の「わ」～	県内の耕作放棄地を利用した農作物の栽培やイベント企画	水戸市
3	○	○	○	●学生地域参画プロジェクト ○部活・サークル	●地域活性ドローンプロジェクト ○茨城大学 航空技術研究会	ドローンを用いた空撮による観光PRや防災事業の提言・実施	石岡市、水戸市、ほか
4	○	○	○	●学生地域参画プロジェクト ○部活・サークル	●茨大生×東北プロジェクト ー茨大生と共にもう一度被災地へ、そして伝える活動へー ○茨大東北ボランティア*Fleur*	宮城県におけるボランティア活動を企画・運営。東日本大震災で被災地した小学校の花壇や菜の花畑の整備等を実施	水戸市、東北地方
5	○		○	●学生地域参画プロジェクト	●茨大聞き書き隊Notes	関東東北豪雨の被災経験をまとめた聞き書き冊子の第2版を作成し、常総市内で防災教育の展開を図る	常総市
6	○		○	*授業・ゼミ	*人文社会科学部 小原ゼミ	笠間市や笠間稲荷門前通り商店街を活性化するために、主に食を活かしたまちづくりに取り組んでいる。今年度はここ数年の門前通りへの新店舗の出店ラッシュの要因を研究しながら、さらなる商店街の活性化への方策の提言と、提言に基づいた活動を展開している	笠間市、常陸大宮市、常陸太田市、高萩市
7	○	○	○	*授業・ゼミ ◇平成29年度茨城県女性・若者企画提案チャレンジ支援事業	*人文社会科学部 土屋ゼミ ◇君とチャレンジ	障害者雇用促進の環境づくりを目指し、平成24年度より障害者雇用の実態発信や障害者への理解の場の提供を目的とした活動を行なっている。27年度からは「ATTAKA障害者自立支援プロジェクト」主催の「みとちゃん朝市」に準備段階から参加し、現在もスタッフとして参加している。今年度は、「朝市」内で学生主体のイベントを企画・開催し、「朝市」活性化を目指し活動している	水戸市
8	○		○	*授業・ゼミ	*人文社会科学部 村上ゼミ	メディアを使った情報発信によって地域とコラボ。都内の学生との交流を通じたひたちなか海浜鉄道の魅力の発信など	水戸市、日立市、ほか
9	○		○	*授業・ゼミ	*人文社会科学部 馬渡ゼミ	自治体から依頼を受け観光PR動画を作成	石岡市、小美玉市、東海村
10	○		○	○部活・サークル	○茨城大学ローターアクトクラブ	留学生との交流会開催、特別支援学校訪問など	茨城県内（特に水戸市）
11		○	○	●学生地域参画プロジェクト	●FES (Food Education Supporter) ～食育応援隊～	阿見町やJAかすみ茨城と協働で小学校での食育推進に取り組んでいる	阿見町
12		○	○	●学生地域参画プロジェクト	●SDGs×イバラキ	講演会やフィールドワークなどを通して、学内や地域にSDGsを広める活動	水戸市、ほか
13		○	○	●学生地域参画プロジェクト	●あみゆめカフェ ～知って、好きになって、発信する 未来に繋げるカフェづくり～	学生と地域の方が交流するカフェイベントを開き、阿見を知って、好きになって、発信する活動を展開	阿見町
14		○	○	●学生地域参画プロジェクト	●岡倉天心・五浦発信プロジェクト	岡倉天心について学びながら、北茨城市五浦地域の魅力を発信し、地域活性化を行う	北茨城市、水戸市
15		○	○	●学生地域参画プロジェクト（スタートアップ版）	●笠間くりざんまいプロジェクト	12月3日に「マルシェカサマロン」を企画、実施。フランス×笠間×大学による国際交流と地域活性化	笠間市
16		○	○	●学生地域参画プロジェクト	●県北空き家再生プロジェクト ～本の集まるゲストハウス～	県北、特に日立市の空き家問題の解決を目指し、活動。空き家の調査、対象物件を選定して、改修案の検討など	日立市
17		○	○	●学生地域参画プロジェクト	●のらボーイ&のらガールの食農教育プロジェクト	阿見町を中心に食農教育プロジェクトを実施。イベントのほか、畑の管理、さまざまな団体との連携を図っている	阿見町
18		○	○	●学生地域参画プロジェクト（スタートアップ版）	●ひたちなか表町商店街活性化プロジェクト	ひたちなか市勝田駅周辺、表町商店街の活性化をめざし、地域の方と合同会議中。ワークショップなどを予定。	ひたちなか市
19		○	○	●学生地域参画プロジェクト	●まなびの輪 ～大洗における多文化共生～	大洗町役場、大洗小学校、地域のボランティアの方々と連携し、大洗町在住の外国人の方々が地域の中で心地よく暮らしていくためのサポート。日本語教室や、イベント、発信など。	大洗町

茨城大学学生地域活動発表会〈はばたく！茨大生〉団体一覧

No.	口頭発表	ポスター	配付資料	カテゴリ	名称(団体・個人)	活動内容	活動地域
1	○	○	○	●学生地域参画プロジェクト	●日本一つながる学食プロジェクト	学生会館内食堂のリニューアル企画及びメニュー開発等。地元企業と連携し、学生・地域の交流を生む食堂事業を提案	水戸市
2	○	○	○	●学生地域参画プロジェクト	●現場から学ぶ茨城学 ～畑で広げる地域の「わ」～	県内の耕作放棄地を利用した農作物の栽培やイベント企画	水戸市
3	○	○	○	●学生地域参画プロジェクト ○部活・サークル	●地域活性ドローンプロジェクト ○茨城大学 航空技術研究会	ドローンを用いた空撮による観光PRや防災事業の提言・実施	石岡市、水戸市、ほか
4	○	○	○	●学生地域参画プロジェクト ○部活・サークル	●茨大生×東北プロジェクト ー茨大生と共にもう一度被災地へ、そして伝える活動へー ○茨大東北ボランティア*Fleur*	宮城県におけるボランティア活動を企画・運営。東日本大震災で被災地した小学校の花壇や菜の花畑の整備等を実施	水戸市、東北地方
5	○		○	●学生地域参画プロジェクト	●茨大聞き書き隊Notes	関東東北豪雨の被災経験をまとめた聞き書き冊子の第2版を作成し、常総市内で防災教育の展開を図る	常総市
6	○		○	*授業・ゼミ	*人文社会科学部 小原ゼミ	笠間市や笠間稲荷門前通り商店街を活性化するために、主に食を活かしたまちづくりに取り組んでいる。今年度はここ数年の門前通りへの新店舗の出店ラッシュの要因を研究しながら、さらなる商店街の活性化への方策の提言と、提言に基づいた活動を展開している	笠間市、常陸大宮市、常陸太田市、高萩市
7	○	○	○	*授業・ゼミ ◇平成29年度茨城県女性・若者企画提案チャレンジ支援事業	*人文社会科学部 土屋ゼミ ◇君とチャレンジ	障害者雇用促進の環境づくりを目指し、平成24年度より障害者雇用の実態発信や障害者への理解の場の提供を目的とした活動を行なっている。27年度からは「ATTAKA障害者自立支援プロジェクト」主催の「みとちゃん朝市」に準備段階から参加し、現在もスタッフとして参加している。今年度は、「朝市」内で学生主体のイベントを企画・開催し、「朝市」活性化を目指し活動している	水戸市
8	○		○	*授業・ゼミ	*人文社会科学部 村上ゼミ	メディアを使った情報発信によって地域とコラボ。都内の学生との交流を通じたひたちなか海浜鉄道の魅力の発信など	水戸市、日立市、ほか
9	○		○	*授業・ゼミ	*人文社会科学部 馬渡ゼミ	自治体から依頼を受け観光PR動画を作成	石岡市、小美玉市、東海村
10	○		○	○部活・サークル	○茨城大学ローターアクトクラブ	留学生との交流会開催、特別支援学校訪問など	茨城県内（特に水戸市）
11		○	○	●学生地域参画プロジェクト	●FES (Food Education Supporter) ～食育応援隊～	阿見町やJAかすみ茨城と協働で小学校での食育推進に取り組んでいる	阿見町
12		○	○	●学生地域参画プロジェクト	●SDGs×イバラキ	講演会やフィールドワークなどを通して、学内や地域にSDGsを広める活動	水戸市、ほか
13		○	○	●学生地域参画プロジェクト	●あみゆめカフェ ～知って、好きになって、発信する 未来に繋げるカフェづくり～	学生と地域の方が交流するカフェイベントを開き、阿見を知って、好きになって、発信する活動を展開	阿見町
14		○	○	●学生地域参画プロジェクト	●岡倉天心・五浦発信プロジェクト	岡倉天心について学びながら、北茨城市五浦地域の魅力を発信し、地域活性化を行う	北茨城市、水戸市
15		○	○	●学生地域参画プロジェクト（スタートアップ版）	●笠間くりざんまいプロジェクト	12月3日に「マルシェカサマロン」を企画、実施。フランス×笠間×大学による国際交流と地域活性化	笠間市
16		○	○	●学生地域参画プロジェクト	●県北空き家再生プロジェクト ～本の集まるゲストハウス～	県北、特に日立市の空き家問題の解決を目指し、活動。空き家の調査、対象物件を選定して、改修案の検討など	日立市
17		○	○	●学生地域参画プロジェクト	●のらボーイ&のらガールの食農教育プロジェクト	阿見町を中心に食農教育プロジェクトを実施。イベントのほか、畑の管理、さまざまな団体との連携を図っている	阿見町
18		○	○	●学生地域参画プロジェクト（スタートアップ版）	●ひたちなか表町商店街活性化プロジェクト	ひたちなか市勝田駅周辺、表町商店街の活性化をめざし、地域の方と合同会議中。ワークショップなどを予定。	ひたちなか市
19		○	○	●学生地域参画プロジェクト	●まなびの輪 ～大洗における多文化共生～	大洗町役場、大洗小学校、地域のボランティアの方々と連携し、大洗町在住の外国人の方々が地域の中で心地よく暮らしていくためのサポート。日本語教室や、イベント、発信など。	大洗町

No.	口頭発表	ポスター	配付資料	カテゴリ	名称(団体・個人)	活動内容	活動地域
20		○	○	●学生地域参画プロジェクト ○部活・サークル ◇平成29年度茨城県女性・若者企画提案チャレンジ支援事業	●地方創生事業 里山フォレストフェス 地域ブランディングプロジェクト ○いばらきキャンドルナイト ◇クリスマスキャンドルナイト	9月9日・10日に常陸太田市の里山ホテルときわ路で開催された「里山フォレストフェス」でワークショップを開催。里山環境の保護や魅力発信。	常陸太田市、水戸市、ほか
21		○	○	●学生地域参画プロジェクト ○部活・サークル	●大洗応援隊！ ～OPEN OARAI もっと大洗を身近に～	大洗町で、空き店舗を利用したカフェ「ほげほげカフェ」を運営。イベントや商店街マップの作成など。	大洗町
22		○	○	●学生地域参画プロジェクト(スタートアップ版) ○部活・サークル	●廃校那珂湊二校を活用した多世代交流プロジェクト ―話題のグランピングに学生が挑戦― ○High! School☆彡	ひたちなか市「旧県立那珂湊第二高校」の利活用に継続的に関わっていく。地域の方との多世代交流を目的にさまざまな企画や運営を行う。	ひたちなか市
23		○	○	●学生地域参画プロジェクト(スタートアップ版)	●「かすみがうら市こども未来フェス」サポート活動	3月11日に開催される「かすみがうら市こども未来フェス」の実行委員会の方と意見交換を行いながら、今年度や次年度以降の「子ども未来フェス」へのアイデアを出し、当日の運営のサポートなど、協働での取り組みを相談していく。	かすみがうら市
24		○	○	*授業・ゼミ	*人文学部 地域課題の総合的探求プログラム(3年生・2年生) *人文社会科学部 地域志向教育プログラム(1年生)	人文学部のプログラム。さまざまな専門を持った学生がともに地域について学び、グループに分かれて、それぞれのテーマについて研究を行い、自治体等に向けて提案・提言を行う。平成29年度からは「人文社会科学部地域志向教育プログラム」として実施。	常陸大宮市、水戸市、笠間市、ほか
25		○	○	*授業・ゼミ ◇平成29年度茨城県女性・若者企画提案チャレンジ支援事業	*人文社会科学部 清山ゼミ ◇学びと交流の秘密基地	水戸市内での子どもの学習支援。県内学習支援事業立ち上げ支援(ノウハウの提供、ボランティア協力その他)。大学生までを含む子どもの貧困問題や学習支援活動に関する講演など	水戸市、東海村、茨城町、小美玉市、取手市、ほか
26		○	○	○部活・サークル	○ラグビー部	NPO法人子ども未来飛行、本学の教育系サークル「千の星」と連携し、月1回程度、地域の小学生や保護者を対象に「親子で楽しむラグビー教室」を開催。	水戸市、ほか
27		○	○	*授業・ゼミ	*人文学部 プロジェクト実習	人文学部の授業。チームに分かれて、地域の活性化などをテーマに研究や活動を行っている	水戸市、常陸太田市、ほか
28		○		●学生地域参画プロジェクト	●SENBA Project	千波湖で、ボートの体験教室を開き、自然環境の保護、魅力などを発信	水戸市
29		○		●学生地域参画プロジェクト	●西塩子の回り舞台茨大チーム	2016年、日本最古の組立て式農村歌舞伎舞台「西塩子の回り舞台」の組み立てや公演をサポート。「西塩子の回り舞台」保存会の方と協働し、組み立て・公演のない年も、地域の活動に参加・協力し、「西塩子の回り舞台」の魅力発信	常陸大宮市
30			○	○部活・サークル ◇平成29年度茨城県女性・若者企画提案チャレンジ支援事業	○子どもふれあい隊 ◇子ども×未来プロジェクト	大子町での小学生対象のキャンプや、水戸市近隣の小学生を対象にしたイベント、常陸大宮市教育委員会「小学生のお宝発見事業」への協力など	大子町、水戸市、常陸大宮市、ほか
31			○	*授業・ゼミ	*人文社会科学部 原口ゼミ	福島第一原子力発電所事故の影響を受け茨城県内に避難されている子供・親御さんを対象に、子供たちには大学生と遊ぶ場、親御さんにはリラックスできる場・交流する場を提供することを目的として毎年キャンプを開催	水戸市、大洗町、ほか
32			○	*授業・ゼミ	*人文社会科学部 佐川ゼミ	行政学ゼミナール(佐川ゼミ)の「防災グループ」。大洗町における自主防災組織の組織化・活性化策の研究	大洗町
33			○	○部活・サークル	○アナウンスステーション	水戸ホーリーホックの試合運営ボランティアとして、ホーム試合の日、ケーズデンキスタジアムで活動。ほかに高校サッカーの場内アナウンス、地域イベントの司会など	水戸市、ほか
34			○	○部活・サークル	○マルチイベント企画団体Familia	「水戸まちなかフェスティバル」に協力し、「特設ステージ」の企画・運営を行っている。土浦青年会議所との共同開催イベントの実施など	水戸市、土浦市、ほか
35				*授業・ゼミ	*人文学部 歴史・文化遺産コース	常陸太田市・常陸大宮市・笠間市等での「集中曝涼」への協力。「茨城史料ネット」の活動など	常陸太田市、常陸大宮市、笠間市、水戸市、ほか
36				○部活・サークル	OC's	水戸商工会議所と協働し、水戸市商店街活性化などに取り組む	水戸市
37				○部活・サークル	○Cherry's	地域イベントに招聘され、チアのパフォーマンスなど	
38				○部活・サークル	○English Camp	英語を用いた活動に取り組んでいる	

No.	口頭発表	ポスター	配付資料	カテゴリ	名称(団体・個人)	活動内容	活動地域
39				○部活・サークル	OIVO 学生ボランティア団体	さまざまなボランティア活動に取り組んでいる	
40				○部活・サークル	OSLSC	ライフセービング、ボランティアとしての活動	大洗町、ほか
41				○部活・サークル	○茨城ロボッツ応援サークル	茨城ロボッツの応援ボランティア	
42				○部活・サークル	○学生赤十字奉仕団	日赤ボランティア、老人ホーム訪問、ほか	
43				○部活・サークル	○教育実践サークル「千の星」	授業の研究などを行っているほか、茨城町小鶴商店街コミュニティスペースでの子どもたちの学習支援への協力、ラグビー部「タグラグビー教室」への協力、など	茨城町、ほか
44				○部活・サークル	○児童文化研究会	小学生との外遊び、遠足、人形劇講演等のほか、自治体等でのイベントへの協力、など	
45				○部活・サークル	○はが路100Km徒歩の旅	「はが路100Km徒歩の旅」の企画・実施など	
46				○部活・サークル	○放送研究会	NHK水戸放送局、地域イベント等への出演やアシスタント等	
47				○部活・サークル	○星見同好会	市民向けの天体観測の実施、県立図書館プラネタリウム上映、など	
48				○部活・サークル	○よさこいサークル海砂輝	よさこいの練習。地域でのイベント等に参加、協力	
49				○部活・サークル	○落語研究会	県立図書館での落語会開催、自治体等の依頼でボランティアでの落語の公演	
50				○部活・サークル	Olbaraki University Racing	フォーミュラカーの製作、フォーミュラ大会出場。地域の企業等の支援や協力等を受け、協働での取り組み等	
51				○部活・サークル	○楽農人	阿見町と協働し、地域の耕作放棄地の活用や、食育活動に協力	阿見町
52				○部活・サークル	○地質情報活用プロジェクト	「茨城県北ジオパーク」の事業を支える学生チームとして活動	
53				◇平成29年度茨城県女性・若者企画提案チャレンジ支援事業	◇あゆみなと実行委員会	那珂湊のまちあるきなどを実施し、若者による地域活性化に取り組む	ひたちなか市
54		○	○	*授業・ゼミ ◇平成29年度茨城県女性・若者企画提案チャレンジ支援事業	*人文学部 プロジェクト実習 ◇KITAIBA Art Project	アートとコラボレーションし、北茨城市の魅力を発信する活動	北茨城市
55				◇平成29年度茨城県女性・若者企画提案チャレンジ支援事業	◇茨城学生国際会議実行委員会	11月18日・19日に茨城大学で開催した「茨城学生国際会議」の企画・実施	
56				◇平成29年度茨城県女性・若者企画提案チャレンジ支援事業	◇茨城町の魅力発見し隊	茨城町小鶴商店街の空き店舗を改装し、コミュニティスペースを運営。子どもたちの学習支援を行うなど、地域の活性化に取り組む	茨城町
57				◇平成29年度茨城県女性・若者企画提案チャレンジ支援事業	◇道の駅ひたちおたへの支援学生グループ	「道の駅ひたちおた」の魅力発信などに取り組む	

茨城大学オープンキャンパス2017企画「涼み処 シャレンc a f e」

平成29年7月22日(土)、茨城大学オープンキャンパスにて社会連携センターは「涼み処 シャレンc a f e」を出店した。休憩を兼ねた場所を用意し、学生の地域での活動紹介ポスターを掲示し、実際活動に携わる学生と高校生(保護者等含む)が気軽に話せる空間とした。センター入り口では、学生地域参画プロジェクトの学生が活動をアピールしつつ呼び込みとして協力してくれた。

また、センター研修室では、茨城大学や地域での活動に興味を持つ高校生に「茨城学」を紹介し、アクティブラーニング体験をしてもらった。

実施日：平成29年7月22日(土)

時間：9時15分～15時00分 天気：くもり時々晴れ

場所：社会連携センター3階ミーティングルームⅢ

※研修室にて模擬授業「茨城学」も同時開催

※センター入口にてつな食のかき氷販売を実施

参加者数：のべ68名

※茨城学・・・1回目：26名

2回目：26名

つな食・・・約180杯を販売



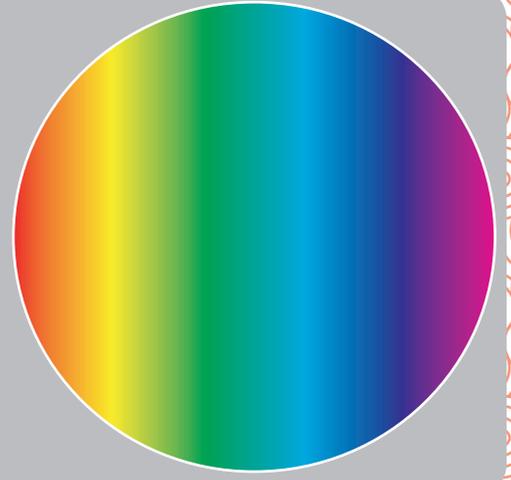
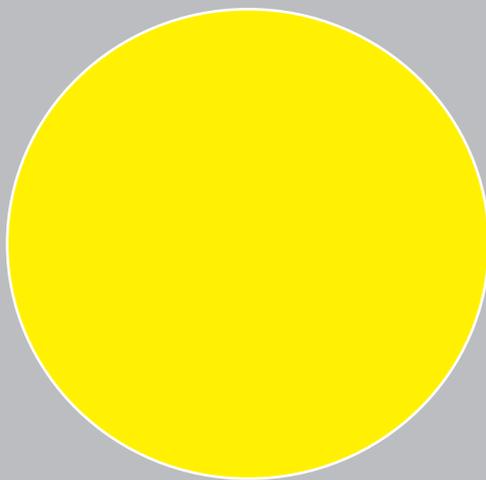
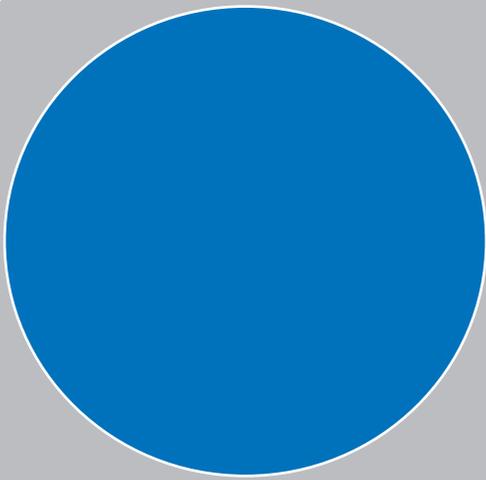
【実施した効果や今後の対応について】

- ・参加者からの感想には、「茨城のよさを再認識できた」「大学のことをたくさん知れて本当によかった」等、茨城県、茨城大学への興味関心を高める機会となったという内容の意見が多く出された。
- ・社会連携センターの活動、学生プロジェクトの活動などを、知っていただく機会として、学生パートナーとともに、次年度も企画を考えたい。

涼み処

しやれん CAFE

@社会連携センター 3F



「青春に赤信号なんてない。」

- ・ 学生活動のパネル展示
- ・ 地域で活動する茨大生との交流

**FREE
DRINK!**

OPEN - CLOSE / 9:15 - 15:00

平成29年度 茨城大学工学部研究室訪問交流会

【概要】

茨城産業会議と茨城大学は産学連携事業として、研究室訪問交流会を行っています。本交流会は、大学の有する教育研究の成果を地域の皆様に還元し、情報交換を通じて、産業経済界の活性化に資することを目的に開催しています。最新の研究を紹介し、参加された企業、団体の皆さまと教職員、学生との交流の場となりました。

実施日：平成29年10月30日（月）
 時間：13時30分～18時00分 天気：晴れ
 場所：茨城大学工学部 N4 棟小平記念ホール
 司会進行：工学部教授 金野 満（社会連携センター副センター長）
 参加者数：平成29年度 110名（一般・企業 87名、大学 23名）
 平成28年度 127名（一般・企業 96名、大学 31名）
 平成27年度 103名（一般・企業 73名、大学 30名）

【アンケート集計結果の概要】

- ・この会を何で知ったか：メーリングリスト、関係者からが9割
- ・満足度：非常に満足、満足が7割
- ・参考になった、よかったもの：
 就職・インターンシップ、講演（2本）、研究室訪問がそれぞれ2割
- ・見学方式：非常に満足、満足が7割
- ・その他の意見：
 大学の取り組みが良く分かった。新しい情報が得られた。
 メモが取りづらいため机のある部屋が良い。
 研究室での時間を長くしてほしい。



1. 工学部研究室訪問交流会プログラム

開催日:平成29年10月30日(月)

会 場:N4棟 小平記念ホール

司 会:茨城大学工学部 教授 金野 満

- | | | |
|---------------------------------|------------------------------|-------------|
| (1) 挨拶 | | 13:30~13:40 |
| | 茨城大学社会連携センター長 | 影山 俊男 |
| | 茨城県商工会議所連合会 専務理事 | 石川 和宏 |
| (2) 工学部の教育研究について | | 13:40~13:50 |
| | 茨城大学工学部長 | 馬場 充 |
| (3) 工学部の就職・インターンシップ状況について | | 13:50~14:05 |
| | 茨城大学副工学部長 | 乾 正知 |
| (4) 講演 | | |
| | ・「ライフサポート科学教育研究センターの活動報告」 | 14:05~14:25 |
| | 教授 増澤 徹 | |
| | ・「次世代モビリティ教育研究センターの活動報告」 | 14:25~14:45 |
| | 教授 梅比良 正弘 | |
| (5) パネル展示閲覧 及び 休憩 | | 14:45~15:00 |
| | ・公開研究室の紹介 | |
| | ・茨城県工業技術センター研究成果 | |
| | ・茨城大学の産学官連携活動状況 | |
| | ・フロンティア応用原子科学研究センター研究成果 | |
| (6) 研究室訪問・見学方法の案内 | | 15:00~15:05 |
| (7) 研究室訪問 | | 15:10~16:40 |
| | 工学部附属教育研究センター関連研究室見学、公開研究室訪問 | |
| (8) 懇親交流会(N4棟 小平記念ホール) ※アルコール無し | | |
| | 17:30 まで学生によるパネル紹介あり | 17:00~18:00 |
| 1) 挨拶・乾杯 | 社会連携センター副センター長 | 金野 満 |
| 2) 歓談 | | |
| 3) 閉会挨拶 | 茨城大学 工学部副学部長 | 梅比良 正弘 |

平成29年度 茨城大学農学部研究室訪問交流会

実施日：平成29年12月1日（金）
 時間：13時30分～18時00分 天気：晴れ
 場所：茨城大学農学部こぶし会館2階研修室他
 司会進行：農学部教授 久保山 勉
 参加者数：平成29年度 67名（一般・企業 43名、大学 24名）
 平成27年度 70名（一般・企業 39名、大学 31名）
 平成25年度 53名（一般・企業 30名、大学 23名）

【アンケート結果集計結果の概要】

- ・メーリングリスト及び関係者からの情報提供によってこの会を知った方が9割。
- ・非常に満足及び満足が7割。
- ・参考になった、良かったもの：特別講演、研究発表が6割
- ・その他：農学部からの「インターンシップ事業」の説明が予定の時間よりかなり長くなったことについてアンケートでも指摘を受けた。



茨城大学農学部研究室訪問交流会プログラム

司会 茨城大学農学部研究推進委員会委員長 久保山 勉

挨拶 (13:30～13:40)

茨城大学社会連携センター長 影山 俊男
茨城県商工会連合会専務理事 野澤 勝

「新しい農学部の教育研究について」 (13:40～13:55)

茨城大学農学部長 久留主 泰朗

第Ⅰ部 研究発表（こぶし会館2F研修室）

(1) 発表 (14:00～14:20)

「うつ病モデルマウスを用いた地域農産物の機能性探索」

茨城大学農学部准教授 豊田 淳

【質疑応答：休憩】 (14:20～14:30)

(2) 招待発表 (14:30～14:50)

「企業と大学の共同研究

～エンドファイトを利用した新しい作物栽培を目指して～」

パイオニアエコサイエンス株式会社 菊地 聖永

【質疑応答：休憩】 (14:50～15:00)

(3) 「農学部のインターンシップ事業について」 (15:00～15:10)

茨城大学就職指導講師 岡田 久美子

第Ⅱ部 研究室訪問等（実験研究棟・事務管理棟1F～6F） (15:10～16:40)

自由見学・研究交流相談

第Ⅲ部 懇談交流会（事務管理棟2F第1会議室） (16:50～18:00)

司会 茨城大学農学部研究推進委員会副委員長 豊田 淳

(1) 乾杯挨拶 茨城大学社会連携センター副センター長 安江 健

～懇談～

(2) 閉会挨拶 茨城大学農学部副学部長 中石 克也

茨城大学パートナーズフォーラム2017

「不確実な未来をどう構想するか～未来をデザインする～」

平成29年6月28日(水)、社会連携センターでは、地元で活躍する企業経営者のみなさまと、本学学生や教職員などが懇親、交流を図る場として、<茨城大学パートナーズフォーラム2017「不確実な未来をどう構想するか～未来をデザインする～」>を開催した。講演会参加者は約195名、懇親交流会参加者は約75名であった。

三村学長の挨拶の後、第一部では、特別講演講師 (株)アダストリア 代表取締役会長兼CEO 福田 三千男 氏の「わが社の未来戦略」、テーマ講演講師 茨城大学 理事副学長 太田 寛行 氏の「茨城大学の教育コミットメント」と、茨城大学 工学部教授 鈴木 智也 氏の「AlphaGo (囲碁プログラム) から人工知能と経営戦略の接点を探る」の3つの講演が行われた。

第二部では、「未来をデザインすることとは？」をテーマに、第一部でご講演いただいた福田 三千男 氏、茨城大学 三村 信男 学長、進行役として博報堂ブランドデザイン副代表 深谷 信介 氏に登壇していただき、鼎談を行った。

第三部では、「学生をまじえた意見交換」として各部屋15名程度のグループに分かれてのグループ討論を行った。最後の懇親交流会では、立食形式で、参加者どうし、自由に会話を楽しんでいただいた。

実施 日：平成29年6月28日(水)

時間：13時30分～19時00分 天気：雨のちくもり

第一部 特別講演 13:30～15:30

第二部 鼎談 15:30～16:35

第三部 グループ討論 16:35～17:30

懇親交流会 18:00～19:00

場 所：第一部・第二部 茨城大学 共通10番教室

第三部 共通13、15、21、43、45、47番教室

懇親交流会 茨苑会館

総合司会：茨城大学 人文学部 2年 倉持 ゆり

特別講演講師：(株) アダストリア 代表取締役会長兼CEO 福田 三千男 氏

テーマ講演講師：茨城大学 理事副学長 太田 寛行

茨城大学 工学部教授 鈴木 智也

鼎談者：(株) アダストリア 代表取締役会長兼CEO 福田 三千男 氏

茨城大学 学長 三村 信男

【進行】博報堂ブランドデザイン副代表 深谷 信介 氏

参加者数：講演会 192名

(学外者／60社89名、学生／41名、教職員／62名)

懇親交流会 74名

(学外者／25社34名、学生／5名、教職員／35名)



特別講演講師：(株)アダストリア 福田会長



鼎談：(左から) 深谷氏、福田会長、三村学長



グループ討論の様子



懇親交流会の様子

【実施した効果や今後の対応について】

・アンケートでは、第一部について「非常に満足」「満足」91%、第二部について「非常に満足」「満足」67%、第三部について「非常に満足」「満足」93%となり、概ね満足していただけた。特に、アダストリアの福田会長のお話を茨城県内で直接聞ける機会ということで来場された方も多かった。福田会長には、第三部での学生との対話、交流を笑顔で楽しんでいたことが印象的だった。

・第二部では、本学学生とサザコーヒー様が共同で開発した五浦コーヒーを、前方で淹れて鼎談の3名にお出しする等の演出を行った。来場者にも、第二部と代三部の間の時間に、ロビーでサザコーヒー様からのコーヒーのサービスがあり、楽しんでいただいた。

・会場内のマイクの音量について、当日の座席が不足したことなど、運営上の課題もあった。また、約半日の企画となり、充実していてよかったという意見と、時間が長く全部に参加することが難しいという声があった。今後の企画の際には、これらの意見を参考に検討していきたい。

茨城大学 パートナーズフォーラム 2017

不確実な未来をどう構想するか ～未来をデザインする～

2017年 6月28日(水)

13:30～ [受付 13:00～]

主催 茨城大学社会連携センター

会場 茨城大学 水戸キャンパス
[共通教育棟10番教室 ほか]

現代は不確実性の時代です。国境を越えた競争の激化、急速な技術進歩、市場の不透明感などにより、経営環境はめまぐるしく変わります。不確実性の高い時代とは、市場動向、顧客の嗜好、他者の動向などの将来見通しそのものが不確実ということであり、綿密な中長期の計画づくりの困難さも増えています。

「未来を読む」というのは人間だけが持っている基本的な能力です。未来とどう向き合うか、将来ビジョンをどう持つのか、イノベーションにつながる経営戦略をどう立てるのか。

今回の「フォーラム」では、地元で活躍する企業経営者のみなさまと「不確実な未来をどう構想するか～未来をデザインする～」をテーマに、本学学生や教職員などもまじえて、懇親、交流を図りながら話し合います。

事前申込制

お申込みにつきましては裏面をご覧ください。

プログラム

開会挨拶 茨城大学長 三村 信男

第一部 13:35～

特別講演

「わが社の未来戦略」

福田 三千男
(株)アダストリア 代表取締役会長兼CEO



福田 三千男 氏

変化の激しいアパレル業界で、グローバルワーク、ローリーズファームなどの多ブランド、多店舗戦略を展開し成長を続ける同社の未来戦略の考え方や目指す方向性などについてご講演いただきます。

テーマ講演1 「茨城大学の教育コミットメント」

茨城大学理事副学長 太田 寛行

茨城大学は今年度から本格的な教育改革をスタートしました。入学式で新入生に対して4年間の学修で到達する学生の近未来像を示し、共に築きあう約束「茨大教育コミットメント」を結びました。その考え方の背景を語ります。

テーマ講演2 「AlphaGo(囲碁プログラム)から人工知能と経営戦略の接点を探る」

茨城大学工学部教授 鈴木 智也

不確実な未来を読むための重要なキーワード「人工知能」。その立役者「AlphaGo」を題材に、人工知能の本質を整理すると共に、「有利なポジション選択の連続」という囲碁と経営の類似性に着目して、「大局観・先読み力・神の一手」を創出するメカニズムを紐解きます。

第二部 15:30～

鼎談 「未来をデザインすることとは？」

福田 三千男・三村 信男

[進行] 深谷 信介 博報堂ブランドデザイン副代表

未来を拓く人材をどう育てるか、その人材をどのように活かし成長につなげてゆくか。激動する「今」を乗り越えつつ、未来をどう構想するか。「企業経営」と「大学教育」、それぞれの立場から教育と経営の未来展望を語り合っていただくとともに、地域のこと世界のことなども縦横に語っていただきます。

第三部 16:35～

グループ討論 「学生をまじえた意見交換」 (共通教育棟 各教室)

講演・鼎談内容などを踏まえ、ご参加のみなさまと本学学生・教職員がグループに分かれ、「私たちの未来」について自由に、楽しく、意見交換していただきます。

分かれていただくグループ・会場などは、当日の受付にてご案内いたします。

懇親交流会

会場 茨苑会館 18:00～19:00

※ご参加費用:お1人様 2,000円

講師プロフィール

株式会社 アダストリア
代表取締役会長兼CEO

福田 三千男 (ふくだ みちお)



福田 三千男 氏

水戸市出身。同志社大学卒業後、関西のアパレルメーカー勤務を経て家業の洋品店を継承。その後(株)ポイントを設立するとともに、多くのアパレルブランドを立ち上げる。現在の社名は(株)アダストリアである。グローバルワーク、ローリーズファーム等17ブランドを統括し、国内外に約1,300店舗を展開する東証一部上場企業。

博報堂ブランドデザイン副代表
スマート×都市デザイン研究所長
茨城大学社会連携センター顧問

深谷 信介 (ふかや しんすけ)



深谷 信介 氏

慶應義塾大学 人文学部卒、東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻修了。メーカー・シンクタンク・外資系エージェンシーなどを経て、博報堂入社。事業戦略・新商品開発・コミュニケーション戦略等のマーケティング等に携わり、地域ブランディング・イノベーションに関しても、研究・実践を行っている。名古屋大学未来社会創造機構客員准教授、つくばみらい市・桜川市参与、富山市政策参与。

茨城大学 工学部教授

鈴木 智也 (すずき ともや)



鈴木 智也 教授

東京理科大学 理学研究科 物理学専攻。博士(理学)。東京電機大学 工学部 電子工学科 助手、同志社大学 理工学部 情報システムデザイン学科 専任講師を経て、茨城大学 工学部 知能システム工学科 教授。国際検定テクニカルアナリスト、本年度IFTA「ジョンブルクス賞」を受賞。

お申し込みについて

事前のお申し込みをお願いいたします

【申込方法】下記にご記入の上FAX頂くか、電子メールにてお申込みください。

【申込期限】平成29年6月26日(月) [期限後は、下記までお問い合わせください]

FAXでのお申込みが
便利です。

お知らせいただく内容

企業・団体・自治体名等				
ご連絡先 (電話・メールアドレスなど)				
役職名	氏 名	講演会	学生をまじえた 意見交換	懇親交流会 (会費 2,000円)
		<input type="checkbox"/> 参 加 <input type="checkbox"/> 不参加	<input type="checkbox"/> 参 加 <input type="checkbox"/> 不参加	<input type="checkbox"/> 参 加 <input type="checkbox"/> 不参加
		<input type="checkbox"/> 参 加 <input type="checkbox"/> 不参加	<input type="checkbox"/> 参 加 <input type="checkbox"/> 不参加	<input type="checkbox"/> 参 加 <input type="checkbox"/> 不参加
		<input type="checkbox"/> 参 加 <input type="checkbox"/> 不参加	<input type="checkbox"/> 参 加 <input type="checkbox"/> 不参加	<input type="checkbox"/> 参 加 <input type="checkbox"/> 不参加

できるだけ公共交通機関の
ご利用をお願いいたします

【お申込み・お問合せ先】

茨城大学社会連携センター 〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1

TEL.029-228-8585 **FAX.029-228-8495**

mail:syaren-apply@ml.ibaraki.ac.jp 担当:岡崎、大澤

※駐車台数に限りがあり、
ご不便をおかけいたします

茨城大学パートナーズフォーラム イブニングサロン

平成 30 年 2 月 28 日（水）、パートナー企業向けの企画として「イブニングサロン」という名称で交流会を実施した。参加者は 58 名。

立食形式の交流会で、参加者は、企業の方と大学関係者、企業の方どうしなど、なごやかに、また、活発に交流をしていただいた。

大学からは、同日に開かれた学術講演会「チバニアンと地磁気逆転」講師の理学部・岡田誠教授、社会連携センターの副センター長、西野由希子、安江健、金野満の 3 人がそれぞれの研究内容などについてショートプレゼンを行った。

今後もこのような交流の場を開催し、パートナー企業の方々と大学の教職員との交流を深めながら、地域とのつながりを広げていきたい。

茨城大学パートナーズフォーラム イブニングサロン

実 施 日	平成 30 年 2 月 28 日（水）	天気：晴れ
時 間	17：30 ～ 19：00	
場 所	京成ホテル 11 階 「オーキッド」	
司 会	茨城大学 地域連携課 企画管理係長 大澤 努	
参 加 者 数	58 名 (パートナー企業等 30 名、学内 28 名)	
資 料 準 備 部 数	60 部	



学長挨拶



乾杯挨拶



会場の様子

【実施した効果や今後の対応について】

- ・今回はじめて「イブニングサロン」を開催した。15 時から開催した学術講演会「チバニアンと地磁気逆転」と同日で連続する形をとったが、どちらかに参加した方、両方に参加いただいた方があった。
- ・今後の「イブニングサロン」について、会場、内容、頻度など、みなさまのご意見やご要望をうかがいながら企画をしていきたい。

	企業名（五十音順）	役職名	代表者（敬称略）	郵便番号	住所	電話番号
1	株式会社アート科学	代表取締役	佐藤 栄作	319-1112	那珂郡東海村村松3135-20	029-270-5501
2	(株)葵建設工業	代表取締役	栗原 英則	310-0063	茨城県水戸市五軒町2-2-7	029-225-1144
3	株式会社旭物産	代表取締役社長	林 正二	319-0321	水戸市高田町127番地	029-303-5500
4	イガラシ綜業 株式会社	代表取締役	五十嵐 則夫	317-0073	茨城県日立市幸町2-8-6	0294-85-8100
5	一誠商事株式会社	代表取締役社長	五十嵐 徹	305-0032	つくば市竹園2丁目2番地4	029-868-6610
6	株式会社イトウ	代表取締役	佐々木 隆	311-4393	東茨城郡城里町那珂西2270-1	029-288-5511
7	株式会社伊藤鑄造鉄工所	代表取締役	伊藤 幸司	319-1112	那珂郡東海村村松3129番地43	029-306-0030
8	茨城県信用組合	理事長	渡辺 武	310-8622	水戸市大町2丁目3番12号	029-231-2131
9	茨城トヨタ自動車株式会社	代表取締役社長	幡谷 史朗	310-0851	水戸市千波町1887	029-241-1511
10	株式会社大塚製作所	代表取締役社長	根岸 貴史	311-4164	水戸市谷津町細田1-64	029-251-4567
11	株式会社鹿島アントラーズ・エフ・シー	代表取締役社長	庄野 洋	314-0021	鹿嶋市粟生東山2887	0299-84-6806
12	株式会社カスミ	代表取締役会長	小濱 裕正	305-8510	つくば市西大橋599-1	029-850-1850
13	木内酒造合資会社	取締役	木内 敏之	311-0133	那珂市鴻巣1257	029-298-0105
14	栗田アルミ工業株式会社	代表取締役社長	栗田 壮浩	300-0015	土浦市北神立町4-5	029-831-0534
15	株式会社ケーシーエス	代表取締役社長	金澤 博之	311-4196	水戸市谷津町1番40	029-253-6111
16	株式会社幸田商店	代表取締役社長	鬼澤 宏幸	311-1203	ひたちなか市平磯町1113	029-263-3737
17	香陵住販株式会社	代表取締役	薄井 宗明	310-0021	水戸市南町2丁目4番33号	029-221-2110
18	株式会社幸和義肢研究所	代表取締役	横張 和壽	305-0845	つくば市大白裕341-1	029-875-7627
19	(株)光和印刷	代表取締役社長	宮角 知安	310-0836	茨城県水戸市元吉田町1823-22	029-247-4362
20	コロナ電気株式会社	代表取締役	柳生 修	312-0052	ひたちなか市東石川3517	029-273-6111
21	株式会社サザコーヒー	代表取締役会長	鈴木 誉志男	312-0043	ひたちなか市共栄町8-18	029-274-1151
22	株式会社三友製作所	代表取締役社長	加藤木 克也	313-0004	常陸太田市馬場町457	0294-72-2245
23	三和ニードルベアリング株式会社	代表取締役社長	田山 英明	300-4351	つくば市上大島1904	029-866-0811
24	株式会社常陽銀行	代表取締役頭取	寺門 一義	310-0021	水戸市南町2丁目5番5号	029-300-2750
25	(株)商輪	代表取締役	黄 磊(コウライ)	310-0021	茨城県水戸市南町三丁目3番46号 天下堂ビル4-A	029-231-7432
26	新熱工業株式会社	代表取締役社長	大谷 直子	311-1251	ひたちなか市山崎141-5	029-264-2772
27	助川電気工業株式会社	代表取締役社長	小瀧 理	318-0004	高萩市上手綱3333-23	0293-23-6411
28	鈴縫工業株式会社	代表取締役社長	鈴木 一良	317-0077	日立市城南町1丁目11番31号	0294-22-5311
29	(株)駿河屋	代表取締役	大原 康宏	310-0852	茨城県水戸市笠原町1497-1	029-241-2002
30	関彰商事株式会社	代表取締役社長	関 正樹	305-0051	つくば市二の宮1-23-6	029-860-5151
31	株式会社染めQテクノロジー	代表取締役社長	菱木 貞夫	306-0313	猿島郡五霞町元栗橋5971番地31	0280-80-0005

	企業名（五十音順）	役職名	代表者（敬称略）	郵便番号	住所	電話番号
32	株式会社タイショー	代表取締役	矢口 重行	310-0836	水戸市元吉田町1027	029-247-5411
33	ダイドードリンコ株式会社	首都圏第二営業部長	小田 敏明	305-0835	茨城県つくば市新井20-2	029-839-0525
34	タカノフーズ株式会社	取締役会長	高野 英一	311-3411	小美玉市野田1542	0299-58-5101
		代表取締役社長	高野成徳			
35	株式会社タナカ	代表取締役社長	田中 司郎	300-4115	土浦市藤沢3495-1	029-862-1234
36	株式会社タンガロイ	代表取締役社長	木下 聡	970-1144	福島県いわき市好間工業団地11番地1	0246-36-8501
37	株式会社長寿荘	代表取締役社長	海野 泰司	312-0023	ひたちなか市大平1丁目22番1	029-273-7711
38	株式会社筑波銀行	代表取締役頭取	藤川 雅海	305-0032	つくば市竹園1丁目7番地	029-859-8111
39	鶴田電機 株式会社	代表取締役社長	鶴田 潤	306-0204	茨城県古河市下大野1793-1	0280-92-5225
40	株式会社ティー・エム・ピー	代表取締役社長	高橋 一雄	319-1234	日立市大和田町645	0294-52-6981
41	株式会社東京電機	代表取締役社長	塩谷 智彦	305-0003	つくば市桜3丁目11番地1	029-857-4341
42	中川ヒューム管工業株式会社	代表取締役社長	中川 喜久治	300-0051	土浦市真鍋1丁目16番11号延増第3ビル8階	029-821-3611
43	株式会社中村自工深川製作所	代表取締役社長	新井 正次	318-0001	高萩市赤浜412	0293-23-3411
44	日東電気株式会社	代表取締役社長	阿部 真也	311-3116	東茨城郡茨城町長岡3268	029-292-1221
45	日本エクシード株式会社	代表取締役社長	森澤 祐二	303-0043	常総市内守谷町4382-4	0297-27-1531
46	株式会社野上技研	代表取締役	野上 良太	319-2144	常陸大宮市泉1136番地3	0295-53-2188
47	株式会社坂東太郎	代表取締役社長	青谷 英将	306-0214	古河市高野540-3	0280-93-0180
48	株式会社東日本技術研究所	代表取締役	鈴木 茂夫	319-1221	日立市大みか町4丁目8番20	0294-52-8888
49	日立オートモティブシステムズ株式会社	取締役会議長	大沼 邦彦	312-8503	茨城県ひたちなか市高場2520番地	029-276-3038
50	平沼産業株式会社	代表取締役	平沼 憲一	310-0836	水戸市元吉田町1739	029-247-6411
51	(株)二葉科学茨城	代表取締役社長	茂垣 康則	310-0852	茨城県小美玉市大笹219-3	0299-48-1178
52	(株)FC水戸ホーリーホック	代表取締役社長	沼田 邦郎	310-0852	茨城県水戸市笠原町136-1	029-212-7700
53	マニー株式会社	代表執行役社長	高井 壽秀	321-3231	宇都宮市清原団地8番3	028-667-1811
54	水戸信用金庫	理事長	塙 由博	310-0803	水戸市城南2丁目2番21号	029-222-3311
55	メークス株式会社	代表取締役社長	武藤 真一	302-0115	守谷市中央4丁目10番9	0297-55-1611
56	株式会社諸岡	代表取締役	諸岡 正美	301-0031	龍ヶ崎市庄兵衛新田町358	0297-66-2111
57	(株)ユードム	代表取締役社長	皆川 藤孝	310-0803	茨城県水戸市城南1-5-11	029-227-3061
58	(株)ユニキャスト	代表取締役	三ツ堀 裕太	319-1221	茨城県日立市大みか町3-1-12	

【茨城大学】ホームカミングデーを開催 185人が参加

茨城大学は、11月11日（土）、「茨城大学ホームカミングデー2017」を水戸キャンパスで開催した。約185人が参加し、学園祭開催中の思い出のキャンパスで旧交を温めた。

今年は同窓会連合会の幹事を中心としたホームカミングデー実施委員会が設置され、ホームカミングデーを全学的な取り組みと位置付けた上で、具体的な催しや企画の立案が検討された。さらに、各同窓会ご協力のもと、多くの卒業生・修了生に対して招待状を送付するとともに、本学の名誉教授や退職教職員等にもお声かけし、前回は上回る参加者数となった。本学に関係する方々が一同に会して懇談し、終始和やかな雰囲気につつまれた。

在学生の活躍では、①学生自らが設計・製作・テスト走行を行い、運営費や材料調達についても渉外活動を行っている学生フォーミュラ部、②茨城県水戸市の観光大使で水戸の梅まつりでもお馴染みの「2018年水戸の梅大使」に選ばれた2名の学生、③「いばらきデザインセレクション2017」の知事選定に選ばれた五浦コーヒーに取り組んだ「岡倉天心・五浦発信プロジェクト」が紹介された。

また、本学職員OBの金野龍一様に「第20代名人 永井兵助」として無形文化財 筑波山ガマの油売り口上のご披露いただき、混声合唱団の校歌斉唱には、合唱団のOB・OGが飛び入り参加して壇上で歌声を披露するなど、OB・OGにもご協力いただいた。

最後は記念撮影を行い、今年のホームカミングデーを終えたが、今後もさらなる卒業生・修了生の輪の広がりに期待していきたい。



参加者全員での記念撮影

【実施した効果や今後の対応について】

・ホームカミングデーの企画としては、年々盛況になっている。平成30年度は、都内近郊に在住・在勤する本学同窓生を対象とした企画を検討していく。



茨城大学ホームカミングデー 2017

思い出のつまったキャンパスへ、久しぶりに足を運んでみませんか？
在学していた頃の昔日を思い出しながら、茨城大学の“今”をご覧ください。

日時 平成 29 年 11 月 11 日 (土)
12 時 30 分 開宴 (開場：12 時～)

茨苑祭も同時開催！
(11 日・12 日)

場所 茨城大学水戸キャンパス
福利センター (大学生協食堂) 1 階

対象 茨城大学卒業生・修了生及びそのご家族
茨城大学名誉教授・退職教職員及びそのご家族
※参加無料、事前申し込みは不要です。直接お越しください。

共催 茨城大学同窓会連合会

平成29年度 社会連携センター 年間予定表

参考資料

社会連携センター

日程	事項	自治体との事業	地域連携課の事業	事業推進課の事業	事業推進課 COC・COCプラスの事業	連携渉外課の事業	参考：産学連携課の事業
4月	上旬	4月6日(木)入学式 茨城県観光物産課(+水戸市コンベンション協会)による観光PR協力	4月6日(木)社会連携センターキックオフ2017 公開講座・公開授業開始 社会連携センター新年度の紹介チラシ作成 4月8日(土)新歓際 学生へ社連PRする(チラシ配布)	4月10日(月)コンソーシアム:道の駅ひたちおおた全体会議			
	中旬		4月19日(水)12:00~ 学生パートナー説明会(参加者 23名)		土曜アカデミー(ライブラリカフェ)開始		
	下旬	4月27日(木)「公募型プロジェクト」公募開始 期限:5月15日(月)		4月26日(水)茨城県北ジオパーク推進協議会 臨時総会			
5月	上旬				5月10日(水) COC:自治体と教員合同の「茨城学」FD・SD 会場:茨城大学社会連携センター		
	中旬	5月18日(木)連携協定先自治体への訪問 挨拶及び事業の確認 対象:11自治体(常陸大宮市訪問済)	学生パートナー活動開始	5月19日(金)コンソーシアム:道の駅ひたちおおた全体会議	COCプラス:COCプラス推進協議会・教育プログラム開発委員会合同会議		
	下旬	5月31日(水) 全学教育機構、社会連携センター主催 学生地域活動発表会 「はばたく!茨大生2017」(参加者 100名) 5月31日(水) 「地域おこし協力隊リーグ2017春の会」開催 会場:茨城大学社会連携センター(参加者 44名) 「学生地域参画プロジェクト第一次募集開始」 締切:5月22日(月)~6月2日(金)		5月20日~25日 地球惑星科学連合大会ジオパークセッション 5月21日 日本ジオパーク委員会 5月25日 日本ジオパーク通常総会 日本ジオパーク議員連盟総会	5月24日(水) COC:地(知)の拠点シンポジウム、FD・SD 会場:理学部インタビュースタジオ		
6月	上旬	「公募型プロジェクト」事業開始			COCプラス:教育プログラム開発委員会	6月7日(水)茨城大学同窓会連合会幹事会 会場:茨城大学社会連携センター	首都圏北部4大学連合(4u)による「新技術説明会」
	中旬				「茨城学」開始(11月まで) ※ビデオ撮影開始		
	下旬	「学生地域参画プロジェクト採択決定」	6月25日(日)「いばらき子ども大学」開催 会場:茨城大学 6月25日(日)「盲導犬のことを知ろう!」開催 会場:茨城大学 6月28日(水) 「パートナーズフォーラム2017」開催 会場:茨城大学 「平成28年度社会連携センター年報」公開	コンソーシアム:道の駅ひたちおおた全体会議			
7月	上旬				7月8日(土)COCプラス: インターンシップマッチングフェア・キャリアサポートセミナー		7月6日(木) 「めぶきFGひびきミーティング2017 (日立キャンパス)」
	中旬	「学生地域参画プロジェクト(第1次)事業開始」		茨城県北ジオパーク推進協議会 運営委員会		「社会連携事業会理事会総会」開催 会場:茨城大学社会連携センター	
	下旬	県および産業会議と「連携講演会」の打合 下半期の自治体主催公開講座(市民講座等)の相談	7月24日(月)~8月25日(金) 「社会教育主事講習会」開催 会場:茨城大学社会連携センター	コンソーシアム:道の駅ひたちおおた学生活動 コンソーシアム:道の駅ひたちおおた全体会議 7/30 コンソーシアム:コンソーシアム拡大シンポジウム 会場:筑波学院大学		茨城大学と同窓会役員との意見交換会	
8月	上旬				8月9日(水) COCプラス:学長・校長対談		
	中旬						
	下旬		「社会教育主事講習会」終了 「2017社会連携センター紹介」チラシ作成	コンソーシアム:道の駅ひたちおおた全体会議			県内中小企業向け研究シーズ発表会 イノベーションジャパン2017参加
9月	上旬		「社会連携センター茨城大学生インターンシップ」[今年度は実施無し] ※重点プロジェクト[情報発信、学生パートナー、研究会] 9月6日(水) 「茨城県・茨城産業会議との連携事業:三者連携講演会」(121名参加) 会場:京成ホテル	コンソーシアム:企画会議			
	中旬		地域連携部門(企業連携)として『いばらきCD交流リーグ』の準備スタート 9月25日・26日「起業セミナー」(いばらき創業10,000社プロジェクト)	茨城県北ジオパーク推進協議会 運営委員会	「5学部混合地域PBL」実施		
	下旬		しんきんビジネスフェア2017参加	9月末日 茨城県北ジオパーク 日本ジオパーク委員会再認定申請書提出 コンソーシアム:道の駅ひたちおおた全体会議		茨城大学同窓会連合会幹事会	首都圏北部4大学連合(4u)による「新技術説明会」 JST東京本別館ホール

日程	事項	自治体との事業	地域連携課の事業	事業推進課の事業	事業推進課 COC・COCプラスの事業	連携渉外課の事業	参考：産学連携課の事業
10月	上旬		10月7日(土)・8日(日) 「関東近県生涯学習・社会教育実践交流会」開催 会場：茨城大学	10月3日・4日 日本ジオパーク委員会再認定現地審査 10月7日(土) 「親月会(五浦日本画塾)」	10月6日(金) COCプラス：COCプラスコーディネーター会議関東ブロック 10月11日(水) COCプラス：インターンシップワークショップ2017 (企業向けインターンシップセミナー)		
	中旬	「学生地域参画プロジェクトスタートアップ版」 募集(応募受付 10月10日～13日)⇒4件採択		「親月会2017」			
	下旬	「学生地域参画プロジェクトスタートアップ版」4件採択⇒事業開始	10月17日 2017筑波銀行ビジネス交流商談会参加 10月30日 茨城産業会議と主催：「工学部研究室訪問交流会」 会場：茨城大学(工学部)	10月25日～27日 日本ジオパークネットワーク全国大会(男鹿半島) コンソーシアム：道の駅ひたちおた全体会議 10月29日(土) 「親月会(天心邸茶会)」			
11月	上旬	11月7日「第2回 協定先自治体との実務者間意見交換会」開催 会場：茨城大学社会連携センター		10月～11月 日本ジオパーク委員会再認定現地審査	11月2日(木) COCプラス：COCプラス推進協議会・教育プログラム開発委員会合同会議 11月8日(水)COCプラス：インターンシップマッチングフェア		名工大テクノフェア2017参加
	中旬	11月11日(土)・12日(日) 「茨城大学茨苑祭 物産展」開催 11月11日(土)「茨城大学ホームカミングデー」開催 会場：茨城大学	茨城大学ベンチャー支援策の公表：めぶきFG 未定：めぶきFG茨城大学ベンチャー支援策、 および、「茨城大学ベンチャーコンテスト」(学内公募)についての説明会			11月11日(土) 「茨城大学同窓会連合会総会」開催 ※ホームカミングデー同日開催 会場：茨城大学	国内地域ものづくり技術連携交流会参加
	下旬		11月23日(木/祝日)「学生ビジネスプランコンテスト」開催 (いばらき創業10,000社プロジェクト) 未定：「めぶきFGビジネスアワード」へ応募	茨城県北ジオパーク推進協議会 運営委員会 コンソーシアム：道の駅ひたちおた全体会議	COCプラス：企業・学生に対するインターンシップアンケート		ひたちものづくりサロン年次総会 ひたちものづくりフォーラム2017
12月	上旬		12月1日 茨城産業会議と主催：「農学部研究室訪問交流会」 会場：茨城大学(農学部) 社会連携センター ログ作成(使用開始)	コンソーシアム：企画会議	COCプラス：「仕事を考える」開始(2月まで) 12月3日(日)笠間マルシェ・ド・カサマロン 12月6日(水)「茨城学」深掘りカフェ		
	中旬	12月13日(水)「学生地域活動発表会くはばたく！茨大生」開催 会場：茨城大学講堂(180名) ※「学生地域参画プロジェクト発表会」を兼ねる 高校生にも参加を呼びかける		12月22日(金) 日本ジオパーク委員会再認定審査結果	水戸ホーリーホック：土曜アカデミー 「フットボールカフェ」開催	基金室：(仮称)「基金寄付者との交流・懇談会」開催	首都圏北部4大学連合(4u)による キャラバン方式での新技術説明会
	下旬			コンソーシアム：道の駅ひたちおた全体会議			日立AMSとのワークショップ
1月	上旬						
	中旬			茨城県北ジオパーク推進協議会 運営委員会	COCプラス：COCプラス推進協議会・教育プログラム開発委員会合同会議		
	下旬	次年度上半期の自治体主催公開講座(市民講座等)の相談	1月24日(水) 茨城新聞社と主催 「新聞マルシェ」+茨城県広報広聴課と合同で開催) 会場：茨城大学図書館ライブラリーホール ※高校生 31日：社会連携センターホームページリニューアル(公開)	コンソーシアム：道の駅ひたちおた全体会議			
2月	上旬						茨城ものづくり企業交流会2018参加
	中旬			日本ジオパークネットワーク全国研修会(箱根)	2月13日(火)予定 COCプラス：若手OB・OG交流会		首都圏北部4大学連合(4u)によるキャラバン方式での新技術説明会
	下旬		めぶきFGものづくり企業フォーラム2018 2月28日(水) 茨城大学学術講演会「チバニアと地磁気逆転」 パートナーズフォーラム イブニングサロン	コンソーシアム：道の駅ひたちおた全体会議	2月27日(火)予定 COCプラス：COCプラスシンポジウム		
3月	上旬	3月8日(木) 地域おこし協力隊活動報告会		コンソーシアム：道の駅発表報告会			
	中旬				COCプラス：教育プログラム開発委員会		首都圏北部4大学連合運営協議会
	下旬		3月20日 「茨城産業会議と連携に関する代表者会議」開催 会場：水戸京成ホテル 3月29日 社会連携センターアドバイザーボード会議 会場：茨城大学社会連携センター 『茨城大学 研究者情報』の刊行 いばらきCDリーグのスタート(H30年4月～)	コンソーシアム：企画会議 コンソーシアム：道の駅ひたちおた全体会議	3月29日 COC/COC外部評価委員会 会場：茨城大学社会連携センター		日立AMSとの連絡協議会